3166人 決意も固く

令和３年度入学式　感染拡大防止へ万全期し挙行

式辞を述べる佐藤学長

本学は4月1日、令和3年度入学式をパシフィコ横浜国立大ホールで午前と午後に分けて挙行し、新入生3166人が入学した。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、新入生および教職員のみの参列とし、内容を一部短縮して実施。当日の収録映像は、式後本学ホームページで限定公開した。

午前の部では、政経、体育、経営の3学部と政治学、経済学、スポーツ・システム、救急システム、経営学の大学院5研究科、午後の部では、理工、法、文、21世紀アジアの4学部と工学、法学、総合知的財産法学、人文科学、グローバルアジアの5研究科の新入生が、やや緊張した表情で式典に臨んだ。

佐藤学長式辞　逆境のとき　質の高い教育を

大澤理事長祝辞　自分を作り出す鍵　自覚して

佐藤圭一学長は式辞で、コロナ禍における本学の取り組みを紹介し、令和3年度もあらゆる事態を想定し質の高い教育・研究を図っていくと伝えた。その上で、これまでの幾多の逆境も本学の「建学の精神」と「教育理念」が国士舘人の精神的支柱となっていること、それらは人類共通の普遍的価値観が内包されていることを述べ、本学での学生生活を全力で取り組み、建学の精神を体現できる国士舘大生になってほしいと期待を示した。

大澤英雄理事長は祝辞で、学生時代は自主性を確立させる時期であり、「大学で築いた豊かな人間関係は自分を作り出す鍵となる。国士舘で人生をたくましく生き抜く準備をしてほしい」と述べ、主体的な学びと自己責任のもと有意義な学生生活を送るよう厳しくも温かい励ましの言葉を贈った。

新入生代表宣誓の法学部・清野そらさん（午後の部）

新入生代表宣誓の体育学部・迫愛理さん（午前の部）

間隔を空けて着席した会場の様子

新入生代表宣誓は、午前の部で迫愛理さん（体育学部）、午後の部で清野そらさん（法学部）が、「建学の趣旨に基づき四徳目を涵養し、学則に従い勉学に専念する」と、それぞれ力強く誓いの言葉を述べた。

在学生代表歓迎の辞は、午前の部で鶴川愛結さん（政経4年）、午後の部で劉優衣さん（理工4年）が、それぞれ新入生に激励の言葉を贈った。

式終了後は、本学の目指す防災教育とその取り組みについて、本学防災・救急救助総合研究所の山﨑登教授が説明した。

「混迷の時代 志を立てて」

中高も入学式

式辞を述べる岩渕校長

令和3年度国士舘高等学校・中学校の入学式が4月7日、世田谷キャンパス10号館の多目的フロアで挙行され、新たに高等学校（全日制課程）289人、中学校36人の生徒が入学した。

式は新入生のほか、教職員および新入生一人につき保護者1人のみの参列とし、検温やアルコール消毒など感染予防策を徹底し実施された。

岩渕公一校長は式辞で、「新型コロナウイルスの収束のめどが立たない中で、皆さんは厳しい入学試験を突破して今日を迎えた。教職員一同は真摯に向き合い、全力でサポートすることを約束する」と述べた。さらに吉田松陰の言葉「志を立ててもって万事の源となす」を紹介し、混迷のこの時代だからこそ、志を立てて夢中で取り組むことが大切だと強調した。

続く祝辞で山田慎吾理事は、中学・高校の3年間にはかけがえのない価値があると述べ「これから始まる国士舘での生活において、自分の中に潜む可能性を見つけるため、何事にも懸命に取り組んでほしい」と激励した。

また新入生代表宣誓は高等学校の白波瀬陽菜さんが、建学の精神を身に付け全力で努力することを力強く宣誓した。続いて新入生の保護者代表があいさつし、最後は全員で国士舘館歌を静聴し閉式した。

高等学校昼間定時制課程の入学式は、4月15日に世田谷キャンパス多目的ホールで実施され、20人が入学した。

オープンキャンパス 画面越し交流

全国から300人参加

対談企画で参加者の質問に答える在学生（右）

令和4年度入学希望者対象の初めてのオープンキャンパスが3月21日にオンラインで開催され、全国から受験を検討する高校生ら約300人が参加した。

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の延長を受け、当初予定されていたキャンパスでの開催を変更し、初のオンラインでの実施となった。午前・午後の2回に分け、大学説明、入学者選抜概要、在学生との対談企画、質疑応答などの各プログラムを通じて本学職員と在学生が画面越しに本学の魅力を伝えた。

対談企画では、事前に多くの質問があった大学の雰囲気やオンライン授業などについて、在学生が自身の経験を踏まえながらざっくばらんに説明し「大変な状況だが、適度に息抜きをし、受験を乗り切ってほしい」とエールを送った。

終了後は、希望者に対し職員が選抜制度や学部・学科などのさまざまな相談に個別で応じた。

「虹色のドア2021」公開

本学はこのほど新たなプロモーションビデオ「虹色のドア2021」（写真）を本学公式ユーチューブチャンネルに公開した。

映像では「夢をあきらめてるヒマなんてない」をコンセプトに、夢に向かってひたむきに努力する本学学生が大学オリジナルソングにあわせて合唱する。感染対策のため一部の学生がリモート撮影で参加するなど工夫を凝らして制作した。

コロナ禍でも前を向く学生たちの姿に引き込まれる映像をぜひご覧ください。

「いま」を発信

公式インスタグラム開設

本学公式インスタグラムを開設しました。学生生活やキャンパス風景など、国士舘の「いま」をリアルタイムに発信していきます。

ハンガリー体育大学と協定締結

スポーツ科学で学術交流

本学はこのほど、ハンガリー体育大学（ハンガリー）との学術交流協定および交換留学協定を締結した。

ハンガリー体育大学は首都ブダペストにキャンパスを構える2学部5研究科を有する国立大学で、1925年に創立された同国最古かつ最大の体育大学。本学が2000年に協定を締結したセンメルヴァイス大学にいったんは統合されたが、14年に再度独立。スポーツ科学において同国唯一の博士課程を持ち、創立以来オリンピック10種目において89人の金メダリストを輩出している。

本学と同大学とは、センメルヴァイス大学当時交換留学生の派遣・受け入れを行うとともに、体育学部武道学科が主催する海外武道実習の研修校として継続的に学生派遣を行うなど交流実績があった。

協定締結により、世界水準のスポーツ競技者と指導者を育成するためのスポーツ科学分野での交流を図り、本学の伝統ある体育分野の研究と実績を、ヨーロッパ屈指の体育大学との連携によりさらに発展させていく。また、生涯スポーツの共同研究などを本学の社会貢献活動に生かすことも期待される。

政経学部開設60周年

経営学部は10周年

今年、政経学部が開設60周年を、経営学部が開設10周年を迎えた。

政経学部は記念事業として5月27日、本学学生対象の記念講演会を開催する。出井伸之氏（クオンタムリープ株式会社代表取締役会長）と山本昌邦氏（サッカー解説者）の講演および佐々木洋氏（花巻東高等学校硬式野球部監督）、山崎貴裕氏（有限会社春華堂代表取締役）ほか4氏による座談会を行う。このほか記念誌などを制作する。

経営学部は、11月に記念式典およびシンポジウムを開催する予定。

政経学部は昭和36年に政治、経済学科の2学科で開設され翌37年に経営学科を増設。平成28年には政治学科を政治行政学科に名称変更した。経営学部は同23年に開設。それを受け同29年に政経学部経営学科を閉じ、今に至る。

東京2020ボランティア

参加学生を再調査

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の大会ボランティアおよび都市ボランティアに応募した本学学生は本学把握で約1500人。ところが昨年の大会延期を受けて、卒業などによるボランティア参加予定者の減少が見込まれることから、本学は4月に新入生を含む全学生にアンケートを実施し、改めて参加予定人数の把握に努めている。

本学ではこれまで、ボランティアに応募した学生に対し、スポーツボランティアに関する学内講習会を実施するなど、付加価値を持ったボランティアを育成する取り組みを進めてきた。

また、特別課題研究期間とした学年暦を設け、大会前に春期授業を終了する措置を講じている。

聖火ランナーに

鈴木教授ら2人

各自治体を巡る聖火リレーが3月25日から始まった。本学からは柔道部総監督で全日本男子柔道コーチの体育学部・鈴木桂治教授と男子新体操部の向山蒼斗さん（体育3年）がそれぞれ出身地である茨城県常総市と東京都多摩市を走る予定。

コロナ禍で奨学金拡充

教育後援会が緊急支援

国士舘大学教育後援会は、コロナ禍による家計急変で修学困難となった修学意欲の高い学生への緊急支援として、総額約3千万円の給付等措置を実施した。

同会は本年度事業のうち「夢をあきらめない」給付奨学生制度の運用に加えて、本学独自の奨学金制度の基準に満たない学生への受け皿として、学費の一部を立て替える臨時的措置を講じた。選考は、いずれも必要書類と学生本人への面接によって実施され、合わせて58人が選ばれた。

2月27日に世田谷キャンパスの柴田会館で役員会が開かれ、同会の山田慎吾会長が今回の措置を報告した。今後は募集要項を一部改正したうえで、同会ホームページなどで広く周知する。

新入生に防災グッズ贈る

卒業生にも記念品

国士舘大学教育後援会は、令和3年度学部新入生に対し入学お祝い品として防災グッズを贈呈した。本学が行う防災教育に基づき日頃の備えによる防災意識向上を図るため、毎年新入生に贈っている。

また、令和2年度学部卒業生には記念品としてモバイルバッテリーを贈呈した。

国士舘大学新聞

題字は創立者
柴田德次郎筆

発行所
学校法人国士舘
〒154-8515東京都世田谷区世田谷4-28-1
編集　広報課
☎ 03-5481-3115

国士舘大学

国士舘大学新聞はウェブサイトでもご覧になれます
www.kokushikan.ac.jp/information/public_relations/news_paper/
年４回・25日発行
（1・4・7・10月）

卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。
発送停止やご住所の変更は下記までご連絡くださいますようお願いします。

同窓会事務局
TEL：03-3413-7303
［平日 9:00 ～ 17:00］

今号の紙面

▼故柴田德文舘長　合同葬に600人参列……【2面】
▼対面授業を基本に春期授業開始……【3面】
▼新型コロナウイルス感染防止対策を講じ卒業式を2年ぶりに挙行…【4面】
▼「就活I-HOT　SPACE」に企業278社が参加……【7面】

国士舘創立110周年記念事業の寄付金募集

募金の趣意

国士舘は、創立 100 周年記念事業 (2006 ～ 2018) を完了し、「第 1 次中長期事業計画 (2015 ～ 2019)」を経て 2019 年に新たなビジョン「第 2 次中長期事業計画 (2020 ～ 2024)」を公表しました。第 2 次中長期事業計画では、第 1 次から推進してきた「地域防災力向上のための防災リーダー養成教育に関する研究拠点の構築」の完成を目指します。また、防災教育・研究をはじめ各キャンパスの教育・スポーツ施設の整備を進めます。これらの取り組みにより、本学園の長期にわたるこれまでの改革を更に推進し、私学を取り巻く厳しい環境下で競争力を高めるための計画事業を完遂し、学園改革の総仕上げを目指します。来る創立 110 周年に向け、本学園のビジョン実現に全力を挙げてまいります。

わが学園が「世のため人のために尽くしうる有為の人材の養成」の建学の精神のもと、国士舘独自の教育をもって発展を続けていることにご理解を賜り、創立 110 周年記念募金事業計画に温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。

- 募金目標額：10 億円
- 募集期間：令和 2(2020) 年 4 月～令和 10(2028) 年 3 月　（8 年間）
- 寄付の方法：下記の指定銀行へお振り込みをお願いいたします。ご持参の場合は、募金事務室（世田谷キャンパス）でお受けいたします。※ATM でのお振り込みはご遠慮ください。
- ご寄付受入先金融機関

三井住友銀行　経堂支店
預金種別：普通預金　口座番号：6765802
名義：学校法人国士舘募金口（ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝｺｸｼｶﾝﾎﾞｷﾝｸﾞﾁ）

ゆうちょ銀行（郵便局）郵便振替口座
口座記号番号：00120-0-428129
加入者名：学校法人国士舘募金口（ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝｺｸｼｶﾝﾎﾞｷﾝｸﾞﾁ）

募金の概要

期　別	主な事業項目
通　期（2020/4～2028/3）	▶ 学生・生徒への修学支援事業
	▶ スポーツ・文化活動の振興
	▶ 国士舘大講堂（国登録有形文化財）の保存および防災対策
	▶ 高等学校・中学校の教育環境の充実
	▶ ３キャンパスの教室等の重点整備
	▶ 防災教育の推進強化
	▶ 世田谷キャンパスの再整備の検討
第１期（2020/4～2022/3）	▶ 町田キャンパスの整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスの運用開始
	▶ 多摩キャンパスの拡充整備
	▶ 近隣の救急病院等との連携構築
第２期（2022/4～2025/3）	▶ 多摩キャンパス南野校舎の整備
	▶ 国士舘楓の杜キャンパスへのスクールバス運行
第３期（2025/4～2028/3）	▶ 4キャンパスの施設環境の充実

※上記の「主な事業項目」は、計画の具体化により若干の変更を伴います。
また、寄付金は、総事業費の一部に充当させていただきます。

＜募金についてのお問い合わせ＞
学校法人国士舘 募金事務室 創立 110 周年記念事業募金委員会
東京都世田谷区世田谷 4-28-1 Tel：03-5451-8207

新役員に9氏選任

3月の理事会で、学校法人国士舘寄附行為第6条第1項第2号などにより長谷川均氏、村岡幸彦氏が、同3号などにより福本正幸氏、美納淳一氏が学校法人国士舘理事に、同寄附行為第33条第1項第2号などにより岩元浩一氏、福永清貴氏、畑勲氏、美納清美氏が、同3号などにより坂本勝矢氏が、同4号などにより福本正幸氏、美納淳一氏が学校法人国士舘評議員にそれぞれ新たに選任され、4月1日付で発令された。

略歴は次のとおり。

●長谷川　均（はせがわ・ひとし）67歳。昭和52年法政大学文学部卒業、同55年同大学院人文科学研究科地理学専攻修士課程修了、同60年同博士課程単位取得退学、平成19年博士（理学）（東京都立大学）。昭和63年国士舘大学文学部講師、平成12年同教授。文学部長を経て、同30年学校法人国士舘評議員、令和元年国士舘大学副学長。任期は令和6年3月31日まで。

●村岡　幸彦（むらおか・ゆきひこ）68歳。昭和54年東京医科歯科大学医学部卒業。外科医師として同大学医学部附属病院などに勤務し、春日部秀和病院外科部長などを歴任。平成13年国士舘大学体育学部教授。同30年体育学部長、令和元年学校法人国士舘評議員。任期は令和5年5月31日まで。

●福本　正幸（ふくもと・まさゆき）65歳。昭和53年国士舘大学体育学部卒業。同年学校法人国士舘職員。大学院課長、人事課長、総務部長、法人事務局長、学校法人国士舘評議員、同理事などを歴任。任期はいずれも令和6年3月31日まで。

●美納　淳一（みのう・じゅんいち）65歳。昭和53年国士舘大学法学部卒業。同年学校法人国士舘職員。学生・厚生課長、学生部事務部長、学校法人国士舘評議員などを歴任。平成13年国士舘大学政経学部講師、平成13年同教授。同30年政経学部長。任期は令和6年3月31日まで。

●岩元　浩一（いわもと・こういち）64歳。昭和54年青山学院大学経営学部卒業、同56年同大学院経済学研究科修士課程修了、同59年東海大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。静岡英和女学院短期大学専任講師を経て同62年国士舘大学政経学部講師、平成13年同教授。同30年政経学部長。任期は令和6年3月31日まで。

●福永　清貴（ふくなが・きよたか）64歳。昭和56年愛知学院大学法学部卒業、同58年同大学院法学研究科修士課程修了。名古屋経済大学法学部助教授を経て平成17年国士舘大学法学部教授。法学部長、キャリア形成支援センター長などを歴任。任期は令和5年5月31日まで。

●畑　勲（はた・いさお）62歳。昭和56年国士舘大学体育学部卒業。同年学校法人国士舘職員。経営学部事務長、入学課長を経て、令和元年入試部長。任期は令和5年5月31日まで。

●美納　清美（みのう・きよみ）64歳。昭和55年国士舘大学文学部卒業、平成16年桜美林大学大学院国際学研究科修士課程大学アドミニストレーション専攻修了。昭和56年学校法人国士舘職員。教務課長を経て、令和元年教務部事務部長。任期は令和5年5月31日まで。

●坂本　勝矢（さかもと・かつや）77歳。昭和42年国士舘大学政経学部卒業。同年千葉県警察採用、平成13年同首席師範（柔道）。国士舘大学同窓会で本部理事、千葉県支部会長、本部副会長を経て同30年会長。任期は令和6年3月31日まで。

学校法人国士舘 役員・評議員一覧

（4月1日現在）

■理事長　大澤　英雄
■理　事　佐藤　圭一
長谷川　均
村岡　幸彦
横沢　民男
岡林　中今
石田　唱司
島崎　修次
瀬野　隆
福本　正幸
間瀬　誠吾
美納　淳一
山田　慎吾
■監　事　足立　禮一
今福　康夫
佐藤　圭一
■評議員　岩渕　公一
岩元　浩一
表　きよし
二川　佳央
長谷川　均
福永　清貴
村岡　幸彦
横沢　民男
大谷　茂
作田　英一
畑　勲
美納　清美
岡林　中今
加藤　純一
小泉　與七
坂本　勝矢
谷岡　三男
脇本三千雄
小山　泰文
坂本　廣身
島崎　修次
瀬野　隆
福本　正幸
美納　淳一
矢野　博志
山田　慎吾

役職者紹介

4月1日現在の学部・研究科等役職者は次のとおり。

【凡例】●役職名　氏名／所属学部・職名／年齢／専門／任期

●学長　兼　経営学研究科　学部長　兼　武道・徳育研究所　所長
佐藤　圭一＝さとう・けいいち／政経学部・教授／65歳／アメリカ政治史／学長＝令和5・3・31まで、研究科長・学部長・研究所長＝令和4・3・31まで

●副学長
入澤　充＝いりさわ・みつる／69歳／法学部・教授／法学、教育法学／令和5・3・31まで

●副学長
長谷川　均＝はせがわ・ひとし／文学部・教授／67歳／自然地理学／令和5・3・31まで

●副学長　兼　スポーツ・システム研究科　研究科長
角田　直也＝つのだ・なおや／体育学部・教授／68歳／スポーツバイオメカニクス／副学長＝令和5・3・31まで、研究科長＝令和4・3・31まで

●政治学研究科　研究科長
平石　正美＝ひらいし・まさみ／政経学部・教授／64歳／行政学／令和4・3・31まで

●経済学研究科　研究科長
許　海珠＝きょ・かいじゅ／政経学部・教授／59歳／中国経済論、アジア経済論／令和4・3・31まで

●救急システム研究科　研究科長
田中　秀治＝たなか・ひでは る／体育学部・教授／62歳／救急医学／令和4・3・31まで

●工学研究科　研究科長
大浦　邦彦＝おおうら・くにひこ／理工学部・教授／52歳／モデリング、信号処理／令和4・3・31まで

●法学研究科　研究科長
森田　悦史＝もりた・よしふみ／法学部・教授／62歳／民法／令和4・3・31まで

●総合知的財産法学研究科　研究科長
三浦　正広＝みうら・まさひろ／法学部・教授／57歳／著作権法、著作者契約法／令和4・3・31まで

●人文科学研究科　研究科長
菱刈　晃夫＝ひしかり・てるお／文学部・教授／54歳／教育学／令和4・3・31まで

●グローバルアジア研究科　研究科長
小口　和美＝おぐち・かずみ／イラク古代文化研究所・教授／65歳／西アジア考古学／令和4・3・31まで

●政経学部　学部長
岩元　浩一＝いわもと・こういち／政経学部・教授／64歳／財政学、地方財政学／令和4・3・31まで

●体育学部　学部長
村岡　幸彦＝むらおか・ゆきひこ／体育学部・教授／68歳／外科学／令和4・3・31まで

●理工学部　学部長
本田　康裕＝ほんだ・やすひろ／理工学部・教授／66歳／機械力学、自動車工学／令和4・3・31まで

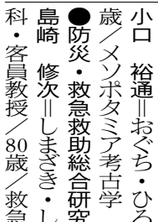
●法学部　学部長
飯塚　真＝いいづか・まこと／法学部・教授／57歳／民法、信託法、金融法／令和4・3・31まで

●文学部　学部長
中村　一夫＝なかむら・かずお／文学部・教授／59歳／日本語学／令和4・3・31まで

●21世紀アジア学部　学部長
表　きよし＝おもて・きよし／21世紀アジア学部・教授／62歳／日本文学／令和4・3・31まで

●イラク古代文化研究所　所長
小口　裕通＝おぐち・ひろみち／同研究所・教授／66歳／メソポタミア考古学

●防災・救急救助総合研究所　所長
島崎　修次＝しまざき・しゅうじ／救急システム研究科・客員教授／80歳／救急医学／令和4・3・31まで



新規採用教職員

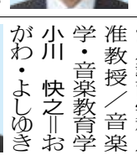
4月1日付新規採用教職員は、次のとおり。（敬称略）

【教員】
［凡例］氏名／所属学科／職名／専門分野

●政経学部
森　朋子＝もり・ともこ／政治行政学科／講師／環境教育・ESD

●体育学部
船渡　和男＝ふなと・かずお／体育学科／特別任用教授／スポーツ科学

●理工学部
大柳　良介＝おおやなぎ・りょうすけ／理工学科／講師／数理科学・地球惑星科学



陳　洋明＝ちん・ようめい／こどもスポーツ教育学科／講師／体育科教育学

●文学部
室町　さやか＝むろまち・さやか／教育学科／准教授／音楽学・音楽教育学

小川　快之＝おがわ・よしゆき／史学地理学科／教授／東洋史（中国史）

●21世紀アジア学部
鈴木　敦子＝すずき・あつこ／21世紀アジア学科／准教授／スポーツマネジメント

●経営学部
冨田　新＝とみた・しん／経営学科／准教授／企業論

山下　修平＝やました・しゅうへい／経営学科／准教授／会計学

粟野　直之＝あわの・なおゆき／経営学科／講師／情報学

●防災・救急救助総合研究所
植田　広樹＝うえた・ひろき／教授／救急医療・防災

都　城治＝みやこ・じょうじ／助教／救急医療・防災

【職員】
［凡例］氏名／所属部課室

小俣　夏乃＝おまた・かの／理事長室広報課

清永　美花子＝きよなが・みかこ／総務部人事課

戸村　紀子＝とむら・もとこ／総務部人事課

本田　隼人＝ほんだ・はやと／財務部経理課

多摩校舎事務課
丑澤　文＝うしざわ・あや／教務部教務課

牧野　聡一郎＝まきの・そういちろう／教務部教務課

田野　ひなた＝たの・ひなた／教務部統合学部事務課

宮本　星羅＝みやもと・せいら／入試部学生募集

集課
門倉　江里＝かどくら・えり／体育学部事務課

山下　瑛理香＝やました・えりか／21世紀アジア学部事務課

甲斐　葉月＝かい・はづき／国際交流センター

国際交流課

情報発信力一段と強化

中高ホームページフルリニューアル

国士舘高等学校・中学校は3月29日、高校全日制課程、昼間定時制課程、中学校のすべてのホームページをリニューアルした＝写真。

ユーザビリティを考慮したデザインとなっており、数多くのコンテンツの中から欲しい情報に簡単にたどり着ける仕様になっている。また、スマートフォンやタブレットなどの各種情報端末にも適したレスポンシブデザインを整備した。

リニューアルに伴い、同校の教育理念や特色ある教育内容、進路情報や学生生活紹介などの豊富なコンテンツを準備したほか、入試情報ページを一新するなど、ホームページでの情報発信をより一層強化していく。

学術研究奨励賞を授与

37件29人たたえる

あいさつに立つ石見教授

3月10日、令和2年度学術研究奨励賞授与式が世田谷キャンパスの大講堂で開催され、役職者・教職員が見守る中、佐藤圭一学長から出席した受賞者21人に表彰状が贈られた。本年度の受賞者は37件29人となった。

授与後、受賞者を代表して小野瀬倫也文学部教授、石見豊政経学部教授、神野誠理工学部教授がそれぞれあいさつに立ち、謝意とともに今後の研究への意気込みを語った。

佐藤学長は祝辞で「国士舘のアカデミズムの象徴でもある大講堂で授与式を開催できたことを喜ばしく思う。皆さんの日々の研さんには、心から敬意を表したい」と受賞者をたたえた。

学術研究奨励賞は令和元年度に制定され、学術研究活動に優れた功績があった者および外部研究資金の獲得などに寄与した者を表彰するもの。受賞者は次の通り。

【学会賞等】
板山真弓（政経学部講師）／位田達哉（理工学部講師）／小野瀬倫也（文学部教授）

【著書刊行】
石見豊（政経学部教授）／生方淳子（同教授）／氏家道男（体育学部教授）／澤井陽介（同教授）／田久浩志（同教授）

【科研費】
八木堅二（政経学部准教授）／関根明伸（体育学部教授）／中込四郎（同特任教授）／二井昭佳（理工学部教授）／土居裕和（同准教授）／宍倉悠太（法学部准教授）／加藤幸治（文学部教授）／平浩一（同教授）／松崎史周（同准教授）／土佐昌樹（21世紀アジア学部教授）／島崎杉雄（経営学部講師）／小口和美（イラク古代文化研究所教授）／平塚和也（スポーツ・システム研究科助手）／平野智也（同助手）

【JSTー】
神野誠（理工学部教授）

【外部助成】
石見豊（政経学部教授）／砂田恵理加（同教授）／大橋隆弘（理工学部教授）／九鬼孝夫（同教授）／二井昭佳（同教授）／土居裕和（同准教授）／位田達哉（同講師）／西村亮彦（同講師）／武田典浩（法学部教授）／川本哲也（文学部講師）

創立110周年記念事業募金

同窓会から寄付受贈

学校法人国士舘は、国士舘大学同窓会から創立110周年記念事業募金のための寄付として100万円を受贈した＝写真。

3月24日、1号館応接室で贈呈式が行われ、同窓会から坂本勝矢会長をはじめ役員らが、学校法人国士舘から大澤英雄理事長、福本正幸常任理事が出席し、坂本会長から大澤理事長に目録が手渡された。

寄付金は、令和9年の国士舘創立110周年に向けて、本学園が取り組む教育・研究、文化・スポーツ振興などの各種事業に対して活用される。

名誉教授 西江氏逝去

本学名誉教授の西江錦史郎（にしえ・きんしろう＝日本経済史）氏が、2月16日に逝去された。77歳。

西江氏は昭和42年中央大学経済学部卒業、同44年同大学院経済学研究科経済学専攻修士課程修了、同48年駒澤大学大学院経済学研究科経済学専攻博士課程単位取得。平成25年博士（経済学）（国士舘大学）。昭和50年本学政経学部専任講師、同59年同教授。政経学部長、学校法人国士舘常任理事、同評議員などを務めた。平成26年本学名誉教授。

本学硬式野球部の部長として長年にわたり同部の発展に尽くした。

世田谷プラットフォーム 文科省 3年連続選定

世田谷6大学（国士舘、駒澤、昭和女子、成城、東京都市、東京農業）、世田谷区、区内産業界の3者が連携する「世田谷プラットフォーム」が2月15日、文部科学省の「令和2年度私立大学等改革総合支援事業」のタイプ3「地域社会への貢献」（プラットフォーム型）に選定された。

世田谷プラットフォームは、地域における高等教育の活性化ならびに区内産業界、さらには世田谷区全体の発展に寄与することを目的に平成29年に設立。各大学の特色を生かした公開講座や、合同の大学説明会、学生交流プログラムなど多様な取り組みを通して、ステークホルダーに対し教育リソースを提供するなどしている。

本補助事業は、産官学連携を進めるためのプラットフォーム形成を通じた大学改革の推進を支援するもので、平成30年度は同事業のタイプ5（発展型）、令和元年度はタイプ3に選定されており、今回で3年連続の選定となる。

戒名は「國清院德山弘文居士」。写真は弔辞を読む佐藤学長

舘長 柴田徳文氏逝去

合同葬 600人が悼む

学校法人国士舘の舘長で本学名誉教授の柴田徳文（しばた・とくぶみ）氏が4月6日、多発性骨髄腫のため逝去された。74歳。

柴田舘長は、昭和44年国士舘大学政経学部卒業、同46年国士舘大学大学院政治学研究科修士課程修了、同50年同研究科博士課程単位取得満期退学、同53年米国セント・ジョーンズ大学大学院センター・オブ・エイジアン・スタディーズ修了。

昭和50年国士舘大学政経学部助手として入職、同51年同学部講師、平成14年同教授。学校法人国士舘理事、同評議員、国士舘大学副学長などを経て、平成29年定年退職、同年本学名誉教授、同30年学校法人国士舘館長。

専門は、日本国際政治史。

祖父は創立者・柴田徳次郎、父は柴田梵天前館長。在任中は、アジアと日本の発展に寄与する研究に力を尽くし国士舘創立の理念継承を実践した。

また、アメリカンフットボール部の部長として強化を図り、勉学と両立する文武両道の指導方針を徹底した。

葬儀は柴田家と学校法人国士舘の合同葬として執り行われ、4月10日に通夜、同11日に葬儀・告別式が、それぞれ世田谷区の勝國寺・青龍殿で営まれた。葬儀委員長は大澤英雄理事長、喪主は長男の柴田徳重（とくしげ）氏。学生・教職員、卒業生をはじめ、教育関係や企業・団体などから約600人が訪れ、故人をしのんだ。

葬儀・告別式は、両日とも柴田家の菩提寺である鎌倉・臨済宗円覚寺の塔頭（たっちゅう）・黄梅院住職による読経、作法で営まれ、本学の佐藤圭一学長、福本正幸常任理事が弔辞を読み上げた。

佐藤学長は「アジアのために尽くすことは日本人、国士舘人として当然のこと」という創立者の信念を受け継ぎ、海外協定校との交流事業やインドネシア国王宮との合同研究を通じて親交をあつくした柴田舘長の功績を披露した。「人生の先輩であり、副学長として支えていただいた柴田先生は国士舘そのものだった」と哀惜の思いを込め、「建学の精神を堅持・体現した柴田舘長の遺志を継承し発展を誓う」と結んだ。

福本常任理事は文化・スポーツ交流の随行業務を通じて海外出張を共にするなど故人とのかかわりに触れた上で「国士舘にとり多難な時期、柴田舘長の単刀直入にして卓越した識見によって幾度となく難局を乗り超えた」と振り返り、学生への厳しくも慈愛の心で教育指導する在りし日の姿をしのんだ。

その後、遺族、参列者が焼香し、弔電が披露された。最後に、葬儀委員長の大澤理事長が参列者を前にあいさつし、喪主の徳重氏が謝辞を述べた。

棺を乗せた車は大勢の参列者に見送られ隣接する本学へ向けて出発。大澤理事長ほか本学役員が正門に整列して迎えた。長いクラクションが鳴らされると、一同手を合わせて冥福を祈った。

創立者徳次郎翁の四十九年忌

柴田梵天氏の功績 墓誌に刻む

国士舘創立者・柴田徳次郎の四十九年忌となる1月26日、学校法人国士舘前舘長の故柴田梵天氏の墓誌刻銘法要が世田谷キャンパス内の墓所で営まれた。法要は、大澤英雄理事長が施主となり、学園の役員・役職者30人が参列した。

勝國寺・高岡精司住職による読経の中、参列者が次々と焼香した。施主あいさつで大澤理事長は「親子二代にわたり、とりわけ戦後は艱難（かんなん）辛苦を経て国士舘の発展を導いた。父・徳次郎先生に並び梵天先生の功績が墓誌に刻まれることとなり、感無量の思い」と述べ、国士舘のさらなる発展を誓った。

柴田梵天氏は大正6年、創立者の長男として生まれ、早稲田大学卒業後、昭和16年国士舘中学校教諭として入職。国士舘専門学校教授を経て本法人理事、理事長、総長を務めた。戦禍で校舎を失うなど苦難の時代には、理事・校長として運営の中核を担い学園の再興を推し進めた。

墓所は大正末期に設置され、国士舘の草創期に貢献した先覚者を祀る。創立者の祥月命日には墓所内に焼香台が設けられ、教職員が参拝する。

教室での日々 戻る

対面授業が基本に

ハイブリッド型も展開 通学困難者に授業配信

本学は4月12日から春期授業を開始した。授業は通学による対面を基本とし、基礎疾患を持つなどの身体的状況、新型コロナウイルス重症化リスクが高い家族と同居するなどの生活環境、日本への入国に制限がある外国人留学生など、通学困難な学生には特別措置として遠隔での受講を認め、それら学生の授業を担保するためのハイブリッド型授業を展開している。

ハイブリッド型授業は、対面授業を同時配信する方法、対面授業を収録オンデマンドで視聴させる方法、そのほか科目の特性に応じた方法とし、新型コロナウイルスの感染状況に合わせた授業形態の変更にも柔軟に対応する。

多様な授業形態に応じるため、各キャンパスでは一部の教室に天井カメラの設置や授業収録システムの導入をしたほか、ノートパソコン、ウェブカメラ、集音マイクスピーカーを準備。教室と遠隔での受講者が場を共有でき、グループワークなども実施可能となっている。

SAやTAといった学生による教育補助制度などを活用しながら、対面と遠隔双方の授業の質を維持する。

各キャンパスではアクセスポイントを増加するなどして、キャンパス内の通信環境も整備した。

集音マイクスピーカー付きカメラを使ったハイブリッド型授業の様子

感染防止へ万全対策

キャンパス入構時は引き続き、入口での検温、手指消毒、マスクの着用を求め、教室は定員の6割を基準に調整。学生食堂においては、「学生食堂運営ガイドライン」を定め、食堂の衛生管理を徹底している。そのほか、端末室やフィットネスセンターなどの各施設でも利用ルールを示し、感染防止対策を講じている。

東京都を含む4都府県に、4月25日から5月11日まで緊急事態宣言が発令され、本学は期間中の授業を休講とした。以降の授業は一部オンラインに切り替えることも視野に、本学では引き続き、感染状況の変化に応じた対策を行っていく。

「建学の理念 校名に」

佐藤学長が新入生に講話

新入生に向けて熱のこもった講話をする佐藤学長

本学は学部新入生を対象とする恒例の学長講話を、4月2日に多摩キャンパスの体育館第1アリーナと町田キャンパスの30号館301教室で、4月8・9日には世田谷キャンパスの10号館多目的フロアで、学部ごとにそれぞれ実施した。

講話の中で佐藤圭一学長は、新入生に向けて建学の由来やその時代背景などを熱く語るとともに、教育理念や建学の精神についても解説し、「国士舘は他の大学と異なり、ビジョンと理念が学校名に記されている」と強調した。

また本学は建学の精神を堅持しつつ、時代の移り変わりに適応しながらそれを体現し続けていると説明し、「本学は日本人の精神的文化を継承する、特色のある大学。ここで懸命に勉強し、世のため人のために尽くす人材になってほしい」と締めくくった。新入生らは熱心に耳を傾け、講話の最後には佐藤学長に質問を投げかけて理解を深めた。

学長講話は、本学の歴史や理念などを説明することで新入生が本学学生としての自覚と愛校心をもって学生生活を送れるよう、毎年4月に全学部で実施している。

新入生 防災の基礎学ぶ

知識はオンデマンド 教室では実習と確認

学部新入生を対象とした防災総合基礎教育が各キャンパスで実施され、本学防災・救急救助総合研究所の教職員指導の下、約3000人の新入生が受講した。

本年度は、e-learningと集合教育を併用し、心肺蘇生法や初期消火、搬送法などをオンデマンド配信で、防災の基礎知識や簡単な実習を教室で学んだ。

4月6日の集合教育では、21世紀アジア学部の新入生が各教室に分かれ受講した。まず、同研究所の山﨑登教授が講義を行い、本学で防災を学ぶ意義や災害の基礎知識などを解説。災害時の心得として「自助・共助・公助」の大切さを説いた。

続く実習では、災害時の初期対応に関する知識を学んだほか、止血手当や応急手当の方法などを配布された防災グッズやビニール袋を用いて確認した。

防災総合基礎教育は、災害時に防災行動をとることができる人材の養成を目的に平成26年度から全学部の新入生を対象に実施している。

参加した学生らは防災士に期待される役割のほか、ハザードマップの活用法、風水害・土砂災害に備えたマイ・タイムライン作成、心肺蘇生法など幅広く学んだ。

参加した体育学部の男子学生は「就職活動を経て、防災士の資格を在学中に取得しておく必要性を感じたため参加した。試験に向けてしっかり学んでいきたい」と意気込みを語った。

例年行われている「防災リーダー養成論」がオンラインでの開催となったため、対面での受講を必須とする防災士の資格要件に合わなくなっていたことに配慮した。オンライン受講学生の中から、防災士の資格を卒業などの理由で令和2年度中に取得したい学生に限定して実施した。

ビニール袋での止血方法を学ぶ学生ら

防災士養成研修会を開催

受験資格取得に配慮

本学は2月18日から3日間、世田谷キャンパス10号館で「防災士養成研修」を開講し、3年生と4年生の学生5人が受講した。本講座をすべて受講した場合には、「防災士」の受験資格を得られる貴重な機会となる。

シンポジウム

FDたゆまず活動

講習会

ハイブリッド型授業検討 116人オンライン参加

本学FD委員会は3月13日、オンラインで第24回FDシンポジウムを開催し、教職員116人が参加した。

第1部では、3つのワーキンググループから、アクティブラーニング、ルーブリック、授業改善に向けた取り組みについて、それぞれ1年間の活動報告があった。

第2部では、法学部教授で学長室の入澤充室長から令和3年度に実施されるハイブリッド型授業の留意事項、教室での感染対策などの説明があった。入澤室長は「いずれの授業形態であっても、学生の自律的学習を促進させるために、提出物や学生のリフレクション（振り返り）への反応など丁寧な授業を心掛けることが授業の質保証につながる」と結んだ。

第3部では小グループに分かれ情報交換が行われた。令和2年度秋期授業でハイブリッド型授業を実践した教員からは失敗例や工夫例が紹介され、実践に際しての検討事項の共有が図られた。

履修者数や授業形態に合わせた工夫、機器や通信環境の問題、さらに評価の問題にも話が及び、授業方法を検討するにあたり不安な点を積極的に質問する様子が見られた。

貸出機材もテーマ

本学FD委員会は2月から3月にかけて計8回、第2回FD講習会を開催した。令和3年度のハイブリッド型授業の円滑な実施に向けて教員の情報リテラシー向上のために企画されたもので、合わせて約140人の教職員が対面またはオンラインで参加した。

第1部では各回共通として、貸出機材の使用方法と過密が予想されるZoomの通信量削減方法が紹介された。第2部では、ハイブリッド型授業の経験がある各学部教員が講師となり、貸出機材を用いた具体的な実践例を紹介した。

3月4日の回を担当した経営学部の豊田寿行准教授は、授業形態や授業の進め方によるオンライン受講学生の見え方の違いを具体的に解説し、対面受講との溝を埋める工夫を施した授業設計が必要であると説明した。

ハイブリッド型授業の説明をする豊田准教授

高校生が理解深める

高大接続 リーダーを養成

本学は国士舘高等学校の2年生と本学入学予定の3年生を対象に、高大接続計画の一環として学部説明会と国士舘リーダー養成入学前教育を世田谷キャンパス34号館の各教室でそれぞれ実施した。

2月8日に行われた高校2年生対象の学部説明会では、生徒らが希望する学部ごとに教室に分かれ、各学部の教員から説明を受けた。本学の特色や強み、卒業後の進路などが紹介され、参加生徒らは熱心に耳を傾けていた。

また、本学入学予定の3年生を対象とした入学前教育は3月4日に開催され、計179人の生徒が参加した。生徒らは4月から進学予定の学部ごとに指定された教室に集まり、履修方法や国士舘大生としての心構えなどを学んだ。

これらの取り組みは、大学学部教育の理解促進と、入学後に各学年のリーダーとして大学生活をけん引する人材養成を目的に、平成30年度から実施されている。

オンラインで学部説明会

本学では、全国の高校からの依頼を受け、高校生を対象とした本学教員によるデリバリー授業（出張模擬授業）や学部説明会を実施している。

コロナ禍においてはオンラインでも可能としており、2月18日には、理工学部の中村嘉志教授が世田谷キャンパスの研究室で、自校の教室に集まった都内高校2年生に向けZoomを用いて学部説明を行った。

本学の特色や学部・学系ごとの学びの紹介など、約50分にわたって説明し、受講した高校生は配布された大学案内に目を通しながら熱心に聴講していた。

本学のデリバリー授業や学部説明会は年間を通して実施しており、令和元年度は約60件、コロナ下の令和2年度は約40件の実績がある。

画面を通して高校生に語りかける中村教授。機材はこの一年、オンライン授業の動画制作でも活躍した

総志願者数16030人

10人に特別措置適用

本学は令和3年度入学者選抜をAO選抜、推薦選抜、一般選抜（前期選抜、デリバリー選抜、中期選抜、後期選抜）、大学入学共通テスト利用選抜などに分けて実施した。

総志願者数は16030人、受験者数は15368人、合格者数は6882人だった。

新型コロナウイルスの影響を受けた今回の入学者選抜では、選抜制度の振替、追試験の実施、別室受験などの措置を講じ、10人の受験生が対象となった。

令和３年度　国士舘大学入学者選抜結果（確定数）

単位：人

学部	学科等	志願者	受験者	合格者
政経	政治行政	1,160	1,131	650
	経済	2,337	2,215	1,065
	計	3,497	3,346	1,715
体育	体育	871	842	400
	武道	172	170	121
	スポーツ医科	804	778	324
	こどもスポーツ教育	329	317	157
	計	2,176	2,107	1,002
理工	理工	1,715	1,631	780
	計	1,715	1,631	780
法	法律	1,352	1,299	502
	現代ビジネス法	708	692	329
	計	2,060	1,991	831
文	教育	1,033	1,003	340
	史学地理	1,433	1,368	571
	文	905	869	403
	計	3,371	3,240	1,314
21世紀アジア	21世紀アジア	1,094	1,017	645
	計	1,094	1,017	645
経営	経営	2,117	2,036	595
	計	2,117	2,036	595
総計		16,030	15,368	6,882

鶴川寮で入寮式

91人、新たな生活スタート

3月30日、令和3年度学生寮入寮式が町田キャンパス30号館301教室で実施され、町田キャンパス内の鶴川寮に新たに入寮する91人が参加した＝写真。

式では佐藤圭一学長の式辞、細越淳二学生部副部長のあいさつに続き、寮務課職員や学生寮長らの紹介、舘歌と寮歌の斉唱が行われた。式終了後には、寮内での新型コロナウイルス感染防止対策や寮生活の注意点が伝えられた。

鶴川寮には、一般学生や外国人留学生のほか、柔道部（男子）、サッカー部（男子）、硬式野球部が入寮する。

マスコミを追う

【新聞】

●「転換トランジションに、政経学部の森朋子講師が「他者との協働・社会への参画を促す環境教育」として寄稿（環境新聞4月7日）

●胆振東部地震で損壊した北海道北広島市の集会所建て替えについて、理工学部の橋本隆雄教授のコメントが掲載（北海道新聞4月2日）

●「オピニオン正論」に、政経学部の百地章特任教授が「『戸籍の解体』を招く夫婦別姓制」として寄稿（産経新聞3月29日）

●大規模地震の発生時にローカル局に求められる役割について、防災・救急救助総合研究所の山崎登教授のコメントが掲載（中日新聞3月13日）

●三菱ふそうトラック・バス株式会社と共同研究する災害時初動対応用トラック「キャンター・アテナ」について、防災・救急救助総合研究所の津波古憲助教のコメントが掲載（日刊工業新聞3月1日）

●RCEP（東アジア地域包括的経済連携）の締結による日本企業のアジア通商戦略について、政経学部の助川成也教授による解説が掲載（日本物流新聞2月25日）

●テルモ株式会社が理工学部の神野誠教授と共同で研究する、細胞培養作業を効率化する装置について掲載（化学工業日報2月16日）

●新型コロナ感染拡大により救急患者搬送困難事例が増える中で、どのように救急医療を守るのかについて、防災・救急救助総合研究所の畠崎修次所長のコメントが掲載（西日本新聞1月24日）

●「廃藩置県150年」において、廃藩の目的について文学部の勝田政治教授のコメントが掲載（読売新聞1月16日）

【テレビ】

●吟詠「春を迎えて」に文学部の鷲野正明教授が出演（NHK Eテレ3月14日）

●「NHKニュースおはよう日本」において、無保険の在日外国人の命をどう守るかについて、文学部の鈴木江理子教授のコメント文が掲載（NHK総合1月27日）

町田・多摩	世田谷	世田谷
6/12 土 キャンパス施設見学ツアー	6/13 日 キャンパス施設見学ツアー	7/4 日 個別相談会※1
町田・多摩	世田谷	世田谷・町田
7/10 土 個別相談会※2	7/18 日 個別相談会※1	8/28 土 キャンパス施設見学ツアー
世田谷	町田・多摩	世田谷
8/29 日 個別相談会※3	9/25 土 キャンパス施設見学ツアー	9/26 日 個別相談会※1

開催場所 対象学部
※1 世田谷キャンパス　個別相談会（政経／理工／法／文／21世紀アジア／経営）
※2 町田キャンパス　個別相談会（体育こどもスポーツ教育学科／21世紀アジア）
多摩キャンパス　個別相談会（体育）
※3 世田谷キャンパス　個別相談会（政経／体育／理工／法／文／21世紀アジア／経営）

事前申込はこちらにアクセス

混迷体験　たくましく巣立つ

卒業式　2年ぶり挙行

本学は令和2年度卒業式を3月20日、パシフィコ横浜国立大ホールで挙行した。今年は新型コロナウイルス感染防止のため卒業生と教職員のみの参列とし、午前・午後の2回に分けて実施。午前の部では、大学院全研究科と政経、体育、経営の3学部、午後の部では理工、法、文、21世紀アジアの4学部の卒業生が式典に臨んだ＝写真。

令和2年度の学位取得者は、学部2771人、大学院修士課程100人、博士課程5人。うち留学生は127人だった。

令和2年度　2回に分けて

式では、国歌斉唱に続き学位記授与が行われた。午前の部では、大学院博士の学位が政治学研究科の沖野大輔さんはじめ3人に、修士の学位が代表して経営学研究科の謝思羽さんに、佐藤圭一学長からそれぞれ授与された。学士の学位は、経営学部の鈴木桃香さん（午前の部）と文学部の松田康太郎さん（午後の部）が代表して受けた。

その後、優秀修士論文賞授与（午前の部）、優等賞授与、柴田徳次郎賞授与と進み、佐藤学長が式辞を、大澤英雄理事長が祝辞を述べた（要旨別掲）。

在学生代表送辞は、午前の部で佐藤晴香さん（政経3年）、午後の部で阿部萌菜さん（21ア3年）が、卒業生代表答辞は午前の部で福永雅子さん（体育学部）、午後の部で勝俣佳奈さん（理工学部）が読み上げた。最後に列席者全員で国士舘舘歌を斉唱し、閉会した。

新型コロナウイルス感染防止対策として会場では受付を行わず、座席は1席空けて着席。座席番号を登録させて列席者の把握に努めた。また、父母や欠席した卒業生に向け式当日の収録映像をホームページに限定公開した。

マスク姿でカメラに笑顔を向ける卒業生ら

コロナ禍の経験生かして

式辞　佐藤圭一学長

春到来を感じるこの佳き日に、学位を取得された皆さんが一堂に会し、卒業式を挙行できたことは万感胸に迫る思いです。皆さんのご卒業を心よりお祝いいたします。

学生生活最後の年となった令和2年度は歴史に刻まれる猖獗（しょうけつ）の年となりました。長期間にわたって不自由で見通しのつかない中、苦難と忍耐を極める学生生活を強いられました。それでもなお、混迷を極める状況下で結果を出した皆さんは一層強く、たくましくなりました。この経験をこの先の人生に大いに生かしてください。

皆さんが入学した平成29年には、記念すべき「国士舘創立100周年」を迎えました。澄み切った秋晴れの空に色とりどりの風船を解き放った感動は今でも脳裏に焼き付いています。期間中の各種行事などを通じて、国士舘の成り立ちや歴史、本学の特色ある「建学の精神」と「教育理念」を存分に知る機会となったはずです。

東日本大震災から10年を経て、いまなお相次ぐ自然災害にあっても、秩序を重んじ、他者のために行動する日本人の精神文化は、世界中から賞賛される美徳であり、人類に共通した理念型といえます。本学の教育理念である「誠意・勤労・見識・気魄」、そして建学の精神である「国を思い、世のため、人のために尽くす人材、すなわち国士の養成」とは、正しく日本人の心の奥底に脈々と流れる精神文化を国士舘生が継承していることを意味し、皆さんが学んだ防災教育もその一例なのです。

国士舘精神を体現する皆さんと母校国士舘大学との〝絆〟は永遠に続きます。本学の発展の一翼を担い、成長を遂げた皆さんといつの日か再会を果たし、本学そして世界と日本の将来について話し合える日を楽しみにしています。

知識を知恵に変え強みに

祝辞　大澤英雄理事長

ご卒業おめでとうございます。まずは、卒業生を支えてこられたご家族の皆さまに対し、お祝いの言葉とともに大切なお子様を本学に託していただいたことにあらためてお礼申し上げます。

皆さんが青春の一時期を過ごした日々は、貴重な体験としてそれぞれの人生に位置付けられるものと思います。中でも新型コロナウイルスの出現は、私たちがこれまで当たり前だと思うばかりに意識さえしてこなかったことに気付き、感謝し、考え、工夫する日々をもたらしました。キャンパスでの友人や教員との交流にも大きな制限が生じました。皆さんには、コロナ禍で生じた多くの事柄を教訓として後世に伝えてほしいと思います。

さて、皆さんが進む道は決して容易なものではありませんが、自分を見失うことなく、現実を見据え、夢をもって切り開かなくてはなりません。これから実社会で問われるのは「何ができるのか」です。学んだ知識を知恵に変え、自らの強みを発揮するための柔軟な思考を手段として活用していくのです。皆さんは社会において新人ですから失敗を恐れることはありません。失敗や挫折には学びのチャンスや成功のヒントが詰まっています。

もう一つお伝えしたいことがあります。社会的動物である人間は、他者との関係の中で生かされ、育まれます。他者への感謝とともに献身的な行為により「誰かを支えた」「誰かの役に立った」という喜びで満たされます。その気持ちこそが、国士舘精神の原点です。

いかなるときも「人の幸せを自らの幸せとして生きること」「人を思いやる心」を忘れないでください。

皆さんが日本の未来を切り開いていく気魄と勇気を持って歩まれることを心から願ってはなむけの言葉といたします。

優秀修士論文賞・優等賞・柴田徳次郎賞受賞者（カッコ内は出身校）

《優秀修士論文賞》

●政治学研究科
葛恬
●経済学研究科
ゴ俊宏
●経営学研究科
謝思羽
●スポーツ・システム研究科
福永将司
●救急システム研究科
車田祐介
●工学研究科
三間和樹
●総合知的財産法学研究科
川上春花
●人文科学研究科
烏達巴拉
●グローバルアジア研究科
田端和菜

《優等賞》

●政経学部
◇政治行政学科
湊智哉（千葉県立国府台高等学校）
土屋良樹（私立さくら国際高等学校）
五十嵐郁弥（私立駒澤大学高等学校）
◇経済学科
佃有人（東京都立昭和高等学校）
俵積田かおり（川口市立川口総合高等学校）
水野佑太（私立錦城高等学校）
小林祐太（千葉県立柏の葉高等学校）
越田裕介（私立正智深谷高等学校）
石岡優（東京都立永山高等学校）
●体育学部
◇体育学科
和田菜緒（千葉県立柏の葉高等学校）
洞地沙紀（東京都立日野台高等学校）
山西玲（富山県立魚津高等学校）
鈴木大貴（私立翔洋学園高等学校）
◇武道学科
鹿野叶和（東京都立上野高等学校）
荒井美佳子（富山県立富山北部高等学校）
◇スポーツ医科学科
福永雅子（私立鹿児島実業高等学校）
菅原治晃（私立ノースアジア大学明桜高等学校）
八島優太（千葉県立幕張総合高等学校）
◇こどもスポーツ教育学科
中嶋彩葉（群馬県立高崎女子高等学校）
●理工学部
◇機械工学系
古橋隼（東京都立青梅総合高等学校）
◇電子情報学系
清水隆志（東京都立東高等学校）
◇建築学系
勝俣佳奈（山梨県立吉田高等学校）
◇まちづくり学系
桒田航太郎（私立桐朋高等学校）
◇健康医工学系
岩井香菜美（千葉県立八千代高等学校）
◇基礎理学系
武部真亜人（東京都立世田谷総合高等学校）
●法学部
◇法律学科
出井ちなつ（長野県諏訪二葉高等学校）
海谷弘樹（神奈川県立秦野高等学校）
中村太一（東京都立紅葉川高等学校）
◇現代ビジネス法学科
中田知里（富山県立福岡高等学校）
荒屋梨子（さいたま市立浦和南高等学校）
藤下遥香（千葉県立四街道高等学校）
●文学部
◇教育学科（教育学専攻）
宇田川楓花（私立志学館高等部）
◇同（倫理学専攻）
小鮒遥（高崎市立高崎経済大学附属高等学校）
◇同（初等教育専攻）
温泉川颯（埼玉県立春日部東高等学校）
◇史学地理学科（考古・日本史学専攻）
吉田圭汰（埼玉県立本庄高等学校）
◇同（東洋史学専攻）
松田康太郎（私立宇部フロンティア大学付属香川高等学校）
◇同（地理・環境専攻）
藤代拓真（東京都立日野台高等学校）
◇文学科（中国語・中国文学専攻）
小池州太朗（国立筑波大学附属坂戸高等学校）
◇同（日本文学・文化専攻）
田上梨奈（私立大宮開成高等学校）
●21世紀アジア学部
◇21世紀アジア学科
橋詰壮太（長崎県立国見高等学校）
大西彩未（埼玉県立所沢中央高等学校）
小沼レオン（東京都立深沢高等学校）
廉谷貴大（私立自由ヶ丘学園高等学校）
剱持美月（私立旭丘高等学校）
●経営学部
◇経営学科
岡田朋恵（さいたま市立浦和高等学校）
永田陽丈（国立愛媛大学附属高等学校）
西田桃子（埼玉県立上尾南高等学校）
水野佑香（岐阜県立恵那高等学校）
中沼美幸（東京都立江戸川高等学校）

《柴田徳次郎賞》※

●大学院経済学研究科
岡田理恵子
●政経学部
俵積田かおり（川口市立川口総合高等学校）
●体育学部
阿部敏弥（私立帝京高等学校）
●理工学部
鹿倉優希（私立東京高等学校）
●法学部
横山日子（私立国士舘高等学校）
●文学部
武部水音（私立あずさ第一高等学校）
●21世紀アジア学部
伊藤貴史（千葉県立磯辺高等学校）
●経営学部
田中晃（千葉県立千葉高等学校）

※柴田徳次郎賞
創立者・柴田徳次郎の国士舘創設の趣旨および建学の精神を永久に堅持し、昂揚（こうよう）する目的をもって、柴田徳次郎賞基金を創設し、この目的達成に抜群の成果をあげた本学学生に対し、授与するものです。本基金は柴田家ならびに趣旨に賛同された実業家の故白川好古氏の寄付により成り立っています。

中高でも卒業式

「感謝の心を活力に」

国士舘高等学校・中学校の卒業式が3月8日、世田谷キャンパス10号館多目的フロアで挙行され、高等学校（全日制課程）323人、中学校32人の生徒が卒業を迎えた。

式では一人一人が登壇し岩渕公一校長から卒業証書を受け取った。祝辞で岩渕校長は「3年次は休校や行事の中止、部活動の制限など思うような学校生活を送ることができない中、くじけずに進んでくれた。皆さんが選んだ道には困難が待ち受けているかもしれないが、感謝の心は未来への活力になる。親や先生、友人からの恩を忘れず、一歩ずつ明るく素直に歩んでほしい」とはなむけの言葉を贈った。

答辞を読む藤原さん

卒業生代表答辞では高等学校の藤原志帆さんが3月で廃部となったパワーリフティング部での活動を振り返り「前例のない女子の入部を認め、つらいときにも熱く指導してくださったおかげで、全日本優勝、世界大会出場など国士舘に名を刻むことができた。国士舘での経験を糧にこれからの人生を生きていく」と、指導者への感謝と卒業後の抱負を述べた。

新型コロナウイルス感染予防のため卒業生一人につき保護者1人の参加とした。また、例年参列している在校生は式後に校舎入口で出迎え、お世話になった卒業生を見つけるとお礼の言葉を添えて花束やプレゼントを手渡した。

同6日には高等学校昼間定時制課程の卒業式も挙行された。本年度の高等学校卒業生は合計354人だった。

優秀卒業生を表彰

2学会1学位で論文、学業を評価

本学政経学会と21世紀アジア学会では3月、卒業生を対象に優秀論文を表彰し、学生の努力の成果をたたえた。また法学部では、4年間を通じ優秀な成績を修めた学生に対し中村宗雄賞を授与した。表彰者は以下の通り。

《第36回学生優秀論文コンクール／政経学会》

●最優秀賞
◇経済学科
小林祐太、長島賢一
●優秀賞
◇政治行政学科
矢島佑樹
◇経済学科
川口晟矢、俵積田かおり、水野佑太、三橋晃太
●佳作
◇政治行政学科
五十嵐海斗、井川達貴、新田強
◇経済学科
齋藤優樹
●努力賞
◇経済学科
永井聖也

《中村宗雄賞／法学部》

◇法律学科
佐藤旭、富澤夏樹、敷納実菜子、海野凌河、田中悠都
◇現代ビジネス法学科
井上大介、小坂梨花、加藤岳樹、松原真衣、山西田也

《21世紀アジア学会賞／21世紀アジア学会》

●最優秀賞
◇大学院グローバルアジア研究科
横山千明
◇21世紀アジア学科
石渡真衣
●優秀賞
◇21世紀アジア学科
河野祐輝、武田慎ノ介、菊池陸、三科美空
●奨励賞
◇21世紀アジア学科
毛利友也、瀬川織輝、藤田夏帆、秦雨トウ、王琳

列席者全員で記念撮影（政経学会学生優秀論文コンクール表彰式）

クラブ功労者に感謝状

〝永年監督〟3氏が退職

3月12日、同一クラブで10年以上指導にあたり、令和2年度で退職の教職員3人に対し、佐藤圭一学長から感謝状が贈られた。

感謝状が贈呈されたのは、国士舘大学混声合唱団で18年間指導した志澤彰監督（文学部准教授）、弓道部で22年間指導した河西雅未監督（職員）、錬心館空手道部「少林寺流空手道」で42年間指導した美納淳一監督（職員）の3人。

3人には、感謝状のほかにクラブ・サークル活動を管轄する学生・厚生課から、それぞれ指導者着任時に発行された『クラブ・サークルガイド』のクラブ紹介ページと花束が贈られた。

長年の労〝花道〟で送る

定年退職者を送別

令和2年度の「定年退職者を送る会」が3月25日、世田谷キャンパスの国士舘大講堂で行われ、3月に定年退職の教職員13人が出席した。送る会には、大澤英雄理事長、佐藤圭一学長、岩渕公一校長ら役職者や教職員が列席し、退職者の長年の労をねぎらった。

感謝状および記念品贈呈では、大澤理事長が退職者一人一人に感謝状を手渡した。続く理事長あいさつの後、退職する教員を代表して法学部の飯田昭夫教授が、職員を代表して福本正幸法人事務局長がそれぞれあいさつした。

その後、職員からの花束贈呈、佐藤学長による閉会のあいさつ、舘歌斉唱と続き、閉会した。退場の際には列席者が花道をつくって送り出した。

入学時の決意　公開中です

「夢をあきらめない」で

ご卒業おめでとうございます。4年前の入学式では「夢をあきらめないカード」を配付し、これから始まる大学生活に向けたメッセージをいただきました。現在、本学ホームページで4年前のメッセージを公開しています。

これからも夢をあきらめない気持ちを大切にして大きく飛躍されることを祈っています。↓

《退職者》

3月31日付の定年などによる退職者は次の通り。（敬称略）

【大学教員】
長谷川三雄（政経学部教授）、木原英逸（政経学部教授）、池田延行（体育学部教授）、片山等（法学部教授）、元キャリア形成支援センター長）、飯田昭夫（法学部教授）、副学長、国士舘史資料室長、評議員、元大学院総合知的財産法学研究科長など）、志澤彰（文学部准教授）、ジンベルグ・ヤコブ（21世紀アジア学部教授）、永井喜則（経営学部教授）、桜井徹（経営学部教授）、中野常男（経営学部教授）、濱中修（文学部教授）、小森富士登（武道・徳育研究所准教授）

【中高教諭】
岩渕公一（高等学校・中学校校長、校長職は継続）、大貝久吉（高等学校定時制）、秋元正光（高等学校全日制）、中谷幸市（高等学校全日制）

【職員】
福本正幸（法人事務局長など）、山本政江（町田校舎事務課）、河西雅未（教務部教務課）、石井功（教務部授業支援課）、福原一成（教務部統合学部事務課長など）、美納淳一（学生部事務部長など）、伊井克己（21世紀アジア学部事務課）、齋藤京古（町田校舎事務課）、鈴木輝一（学長室FD推進課長）、前田利之（イラク古代文化研究所事務長など）

新４年生の皆様へ
国士舘大学同窓会入会のご案内

2021年3月下旬に「同窓会入会のご案内」をお送りしました。皆様のご入会をお待ちしています。

国士舘大学同窓会は、昭和49年の設立以来、会員の親睦互助を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的に活動してまいりました。会員数は現在約140,000人。全国に52支部を設立し、会員相互の連携・交流事業を通して絆を深めています。学園祭・就職支援など在学生会員をサポートしています。卒業後も母校国士舘の同窓生として、後輩たちの道しるべに…

＜母校、在学生に対する諸事業＞
□入会者への「会員カード」発行（令和3年度より実施）
□卒業記念品の贈呈
□学園祭、学生諸行事への支援、地方父母懇談会開催時の協力 ほか
□割引率の高い学生総合保険の紹介（学費納入者が万一の場合の学費補償、疾病、傷害、賠償責任が補償されます）
□在学生のための就職支援を行う会員団体への援助（支部就職支援委員会、楓教育会など）
□母校創立110周年記念事業募金の支援（同窓生への協力呼びかけ、行事企画参加など）
□箱根駅伝、各種スポーツへの支援

国士舘大学同窓会
詳しくはホームページをご覧ください。
https://www.kokushikan-dousou.jp/
国士舘大学同窓会本部 Facebook
https://www.facebook.com/kokushikan.dousou
お問い合わせ　同窓会事務局：03-3413-7303

「未来宣言」いま再び

この春卒業の俵積田かおりさん（政経学部）と菊池直哉さん（体育学部）は、４年前の平成29年11月４日、国士舘創立１００周年の祝賀行事である記念式典のステージに立った。各界の招待者約１０００人を前に、学生・生徒代表７人のうちの一人として、自らの夢や目標を「国士舘未来宣言」に込めて声高らかに表明。１年生ながらその堂々としたスピーチに、ご臨席の三笠宮家の彬子女王殿下からも温かい拍手が送られた。卒業を前に、本学での日々をそれぞれ振り返ってもらうとともに、新たな船出にあたり、いま再びの「宣言」も聞いた。（編集部）

記念式典で未来宣言を表明する俵積田さんと菊池さん（左端）＝平成29年11月４日撮影

創立100周年の誓い胸に刻み船出

「努力すれば何でもできる」

俵積田（たわらづみだ）かおりさん

舞台の左右に設置された２台の大型スクリーンに１００周年記念映像が流れる中、職員の先導で舞台袖へ向かう。ステージに進み出るタイミングは、何度も練習した。映像上映が終わったと同時に、スポットライトが舞台上の７人を照らす。司会者が「国士舘未来宣言」と読み上げる。本番が始まった。

「過去」との決別

皆の前で発表することは苦手で、大学の授業では緊張のあまり泣いてしまったこともある。共に登壇する仲間たちと練習を重ねたものの、不安を拭えぬまま式典当日を迎えた。会場の雰囲気に圧倒され、本番直前まで大役を引き受けたことへの後悔でいっぱいだったが、終わってみれば「達成感で清々しい気持ちに」。「過去の自分」と決別した瞬間だった。

それからは、「努力すればなんでもできるはず」と一気に自信を深め、アルバイトと学業を両立しながら人の10倍以上の努力を心がけて何事にも挑戦した。ゼミでお世話になった助川成也教授は、海外の大学生との交流などこれまで経験したことのない機会を与えてくれた。卒業時には柴田徳次郎賞と優等賞の受賞という結果がついてきた。

在学中のさまざまなチャレンジは、自分に適した職業の発見にもつながった。生命保険会社の営業職として、スタートを切る俵積田さん。まずはお客様に信頼される営業職となり、世界に通じる生命保険・金融プロフェッショナルになりたいという。新たなステージを前に、自らを鼓舞するような宣言だった。

（令和３年３月19日取材）

「培った力生かし社会貢献」

菊池　直哉さん

「（専門の）三段跳びの記録をもう少し伸ばしたかったですね」と心残りを問われて苦笑いする。福島から上京して入学後しばらくは、所属する陸上競技部の練習や部内の雑務に追われ、高校までとは異なるハイレベルで組織的な活動に慣れるのが精いっぱい。学業優秀者として入学したが、初めての一人暮らしも加わり、１年目は納得できる成績は残せなかった。

そんなつらさを抱えているとき、式典の大役に指名された。

訪れたチャンス迷いなく

「誰にでも訪れることではない一生に一度のチャンス」と捉え、迷いはなかった。練習は毎回世田谷キャンパスで行われ、授業終了後、修学する多摩キャンパスから足を運んだ。動作の確認や発声などを通じた他学部生との触れ合いは気分転換になり、良い刺激ももらった。「部活の練習を休める口実にも」と明かすが、のみ込みの早さと変化への対応力で、メンバーの中心的役割を果たす。

大舞台での経験は、心境に変化をもたらした。３年次にはマネージャーに抜てきされ、陸上競技部の主務業務を担いながら、選手生活を続けた。両立する学業の成果もみえてきた。「組織運営に取り組むことで物事を俯瞰する力が育ち、競技できること自体が当たり前ではなかったことに気づかされた」と振り返る。後輩たちには「一喜一憂せず、長いスパンで考えながら、信じる道を見つけてほしい」とエールを送る。

４月からは、首都圏にある住宅資材を扱う専門商社で新たなステップを踏む。目標は「培った力を生かし、社会に貢献すること」。４年前の宣言と趣旨は同じだ。ジャンプするときはいずれやってくるだろう。

（令和３年３月23日取材）

神野教授のコロナ関連研究 特別プロジェクトに採択

JST ウイルスを大量自動検査

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は２月１日、戦略的創造研究推進事業「コロナ対策臨時特別プロジェクト」に、理工学部機械工学系・神野誠教授（写真）の研究課題「ウイルス変異を考慮した大量自動検査システムの研究」を採択したと発表した。

同プロジェクトは幅広い分野の研究者の結集により、新型コロナウイルスの感染拡大に対応する新たな戦略や革新的な技術の早期創出を目指したもので、昨年９月から10月にかけて募集された。

神野教授の研究は、日本全国１５０件に上る応募の中から書類選考と面接選考を経て、最終的に採択された10件の研究課題のひとつとして選出された。

神野教授らは今後、新型コロナウイルスをはじめとする感染症との共生に資する技術基盤の早期構築を目指して研究を進めていく。

また神野教授はこのほか、再生医療分野でのテルモ株式会社との共同研究も引き続き継続している。本紙５２０号で報じたように、培地交換を自動化する装置の試作品が完成しているが、製品化を前に問い合わせやデモの要請がすでに相次いでいる。同研究については各業界紙でも定期的に報じられ、注目の高さをうかがわせている。

防災 法の観点で探求

法学会がシンポジウム開催

平成23年３月11日の東日本大震災から10年が経った。震災を教訓として本学は、学園横断的な防災教育、被災地への学生ボランティア派遣、災害時の地域との協力体制構築など、防災拠点大学として有事に備えた取り組みを続けている。

本学法学会は３月23日にシンポジウムをオンラインで開催し、災害・復興時に問題となる諸事象に対し法の観点から見つめ直し理解を深めた。

進行は法学部の福永清貴教授が務め、学生と教職員の合わせて43人が参加した。

基調講演では本学防災・救急救助総合研究所の中林啓修准教授が近年の災害傾向を解説した。その上で生活再建支援にシフトしてきている災害対応には法律の専門家の役割が極めて重要であるとし、併せて大規模災害の発生率が高まる現在、現行の災害関連法の見直しも急務と語った。

次に法学部教員６人が、災害時に浮き彫りになった諸問題の法解釈についてそれぞれの専門分野に照らして報告した。

成瀬トーマス誠講師は被災生活の中で議論になる公共の福祉と人権の関係について、櫻井博子講師は東日本大震災津波訴訟の詳細と争点となった予見可能性について、藤巻梓教授は復興の妨げとなった所有者不明土地問題の改善に向けた新しい法令について言及した。

さらに矢田陽一准教授からは災害時やコロナ禍の医療現場で治療や搬送の優先順位を決めるトリアージの刑事責任について、宍倉悠太准教授からは災害時の犯罪発生の現状と問題点について、武田典浩教授からは保険会社の再保険の仕組みと日本の現状について説明があった。

最後に災害を通して得られた知見を今後の防災・復興対策に生かすとの重要性を共有した。

東日本大震災宅地復興フォーラム

橋本教授 復興プロセスを説明

２月24日、公益社団法人地盤工学会が主催する「東日本大震災で被災した宅地の復興に関するフォーラム」がオンラインで開催され、理工学部まちづくり学系の橋本隆雄教授（写真）が登壇した。

橋本教授は「関東地方の諸都市の宅地の復興」と題するパートで司会進行を務め、今年３月に10年の節目を迎えた東日本大震災で、関東地方における液状化被害と復興事業のプロセスについて概略を説明。続いて茨城県神栖市や千葉県浦安市など６つの自治体の担当者が登壇し、自治体ごとの液状化被害の総括や復興事業の実施状況、今後の課題などを報告した。

参加者はＺｏｏｍウェビナーのほか、ユーチューブの限定ライブ配信でも聴講した。同フォーラムへの関心度は高く、Ｚｏｏｍウェビナーでは５００人の定員が満席となったほか、ユーチューブでの閲覧者も常時１００人を超えるなど盛況を博していた。

島崎ゼミが受賞

「社名変更の影響を分析」研究

受賞した４人。左から、大久保さん、大野稜太さん、吉川将生さん、大原綾都さん

経営学部の島崎杉雄ゼミの３年生４人が昨年12月13日に開催された第５回アカウンティングコンペティションで審査員特別賞（実践研究分野）を受賞した。

島崎ゼミは、「社名変更の分析―市場の反応と業績の関係―」と題し、社名変更の公表が資本市場の評価にもたらす影響を明らかにすることを目的とした研究を報告。東京証券取引所に上場している企業を対象に、社名変更に伴う市場の反応をイベントスタディ（財務会計の研究手法）を用いて検証し、公表日前後20日においては、株価に負の反応をもたらすことを明らかにした。

受賞した大久保和馬さんは「データを用いての仮説、検証をすることの難しさと楽しさの両面を味わうことができた。今回学んだことを糧に就職活動や卒業研究に生かしていきたい」と語った。

本コンペティションは、全国の大学で会計学やリスクマネジメント、コーポレートファイナンスなどを学ぶゼミナールの研究発表大会。オンラインで開催された今大会には、全国から20大学30ゼミナール、54チームが参加した。

競争的研究課題一覧

令和２年10月～３年３月に採択され研究中の課題

事業名等	氏名	所属・職名	研究課題等
公益財団法人天田財団「2020年度天田財団助成（一般研究開発助成）」	大橋　隆弘	理工学部教授	パンチングと摩擦攪拌成形を用いた異種材の疑似線形機械的接合の最適化
国立研究開発法人科学技術振興機構「令和２年度戦略的創造研究推進事業（CREST）」	神野　誠	理工学部教授	ウイルス変異を考慮した大量自動検査システムの研究
昭和大学発達障害医療研究所「令和２年度文理融合型の共同研究」	土居　裕和	理工学部准教授	成人ASDにおける音楽選好パターンの非定型性とその内分泌学的基盤の解明
公益財団法人日本生命財団「2020年度ニッセイ財団環境問題研究助成」	西村　亮彦	理工学部講師	伝統工法を活用した歴史的風致の維持・向上手法に関する研究
公益財団法人損害保険事業総合研究所「2020年度損害保険研究費助成制度」	武田　典浩	法学部教授	再保険契約法における服従義務（Folgepflicht）に関する比較法的考察
公益財団法人電気通信普及財団「2020年度学術研究出版助成」	税所　哲郎	経営学部准教授	アジアの情報通信産業と産業クラスター

国士舘史資料室だより ○ 42 ○

新収資料「メダル」紹介

創立十五年記念(左)と武道寒稽古のメダル

戦前の国士舘では折に触れてメダルが配られていた。資料室で所蔵しているメダルだけでも、剣道大会・走踏大会・大運動会・寒稽古・暑中稽古など多岐にわたり、一番古いものは大正15（１９２６）年の国士舘創立10周年記念メダルである。中には硫黄島からアメリカへ渡り、戦後60年以上を経て国士舘へ戻ってきたメダルもある（『大学新聞』第４６８号）。

メダルといっても丸型だけでなく四角形などの形状もあり、わずか３㌢ほどの大きさに多様な意匠が施されている。これまでに収集したメダルの一部は、柴田会館４階の展示室に展示している。

昨年新たに収集したメダルは、武道寒稽古と国士舘創立15周年記念の２点のメダルである。とも に「賞」の文字が刻まれていることから、表彰用に作ったものと思われるが、詳細は不明である。

寒稽古は、現在も実施されている恒例行事であり、資料室所蔵メダルの中でも寒稽古関連のメダルは特に数が多い。意匠は年ごとに違いがあり、今回収集した昭和５（１９３０）年の武道寒稽古のメダルには「国士舘武道寒稽古　昭和五年度」と楓の校章の上に「賞」の文字があり、もう片面には「武」の文字と梅の意匠があしらわれている。例年１月上旬の早朝に実施している寒稽古だが、残念ながら今年は新型コロナウイルスの影響で中止とした。

もう一つは、国士舘創立15周年の記念メダルである。片面には散り紅葉の意匠と「賞」の文字、もう片面には大講堂の意匠とともに「国士舘創立十五年」と「紀元二五九一年」の文字が刻まれている。紀元２５９１年は昭和６年にあたり、国士舘が現在の港区南青山に私塾を創立した大正６年から数えて15年目の年となる。この年の10月11日に挙行した創立15周年記念式典には、頭山満ら国士舘を支援する国士舘維持委員たちも出席していた（『大民要覧』）。

頭山と同じ国士舘維持委員のひとりに渋沢栄一がいる。次期一万円札の顔であり、大河ドラマでも取り上げられて話題の渋沢は、大正10年に副会長を務める財団の講習会を国士舘で開催したことを契機に、大正11年から国士舘維持委員に加わっている。現在も北区飛鳥山公園内に残る渋沢邸では、大正15年に渋沢・頭山・野田卯太郎・徳富蘇峰ら維持委員の長老たちが集まり、大学創設構想を協議するなど、国士舘支援の中核を担っていた。創立15周年記念式典に渋沢が出席していたかは不明だが、式典から一ヶ月後の11月11日に亡くなっている。

戦前に国士舘を卒業したご家族がおられたら、家にはこうした「メダル」が残されているかもしれない。

（国士舘史資料室　畠山典子）

◆資料提供のお願い◆

昨年からのコロナ禍の影響で在宅時間が増え、家の片付けをされた方も多いと思います。国士舘に関わる資料がありましたら、資料室にお寄せください。メダルだけでなく、学生時代の講義ノートや実習道具、思い出の写真・アルバムなど、国士舘に関する資料や情報のご提供をお願いしています。

【ご連絡先】
世田谷キャンパス　柴田会館内　国士舘史資料室
TEL０３（３４１８）２６９１

助川ゼミ

コロナ対策も紹介

インドネシア人介護福祉士候補者とオンラインで交流

２月３日、政経学部の助川成也教授のゼミ生19人が、一般財団法人海外産業人材育成協会（ATOS）東京研修センターで研修中のインドネシア人介護福祉士候補者83人とオンラインで交流した。候補者らは日本とインドネシア間の経済連携協定（EPA）に基づき昨年末に来日し、約６カ月後の介護福祉施設での就労・研修に向けATOSで日本語の勉強をしている。

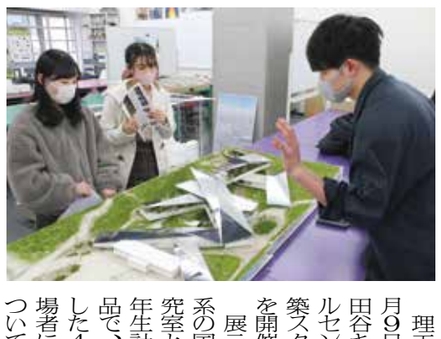
Zoom上で記念撮影する参加者ら

交流会では小グループに分かれ、生活文化、娯楽、コロナ対策、介護事情などのテーマで自国を紹介するグループワークを行った。学生らは難しい日本語を平易な表現に変えて意思疎通を図るなど工夫を凝らしながら和やかな雰囲気で交流を深めた。

東南アジアの経済について学ぶ助川ゼミでは、EPAの意義や具体的な内容などの背景を学んだ上で、毎年インドネシアの看護師候補者や介護福祉士候補者と、都内を案内するなどして交流を続けている。今年は新型コロナウイルスの世界的なまん延により介護福祉士候補者の来日が遅れ、今回が初めての交流となった。

建築学系の卒業設計展

制作者８人が作品説明


作品を前にコンセプトを解説する４年生（右）

理工学部建築学系は２月９日から18日まで、世田谷キャンパスのメイプルセンチュリーホール建築スタジオで卒業設計展を開催した。

展示されたのは建築学系の国広ジョージ健彦研究室と南泰裕研究室の４年生計８人の卒業設計作品で、開催期間中は出展した４年生が在室し、来場者に制作の意図などについて説明したほか、下級生からの質問や相談にも答えていた。

開催初日の２月９日には会場に建築学系の１・２年生が多く訪れ、先輩である４年生と熱心に話し込む姿が見られた。来場した学生からは「制作を担当した先輩と直接話すことができ、コンセプトの立て方などが勉強になった」（１年・女子）「展示以外の、建築全般に関する幅広いことも相談できる有意義だった」（２年・男子）などの声が聞かれた。

1917年、「活学」を講ずる教育道場として、吉田松陰の精神を範とした私塾「国士館」が誕生しました。
以来、学ぶ者みずからが不断の「読書・体験・反省」と「思索」を実践しつつ、「誠意・勤労・見識・気魄」の涵養を教育理念に掲げ、さまざまな分野で活躍する人材を輩出してきました。
創立100周年を迎えた国士舘は、これからも世のため、人のために尽くせる人材「国士」の養成を目指してまいります。

国士舘の建学の精神

「物質文明」を統御する「精神教育」を重視し、「心身の修練」と「知徳の精神向上」を目指し、国家社会の将来を思い、世界の平和と国家社会の改革向上に貢献する人材、即ち「国を思い、世のため、人のために尽くせる人材『国士』の養成」を目指す。

国士舘の教育理念

「国士」養成のため、四徳目「誠意・勤労・見識・気魄」を兼ね備える教育を行う。

「誠意」とは、真心と慈悲の心で、世のため、人のために尽くすこと
「勤労」とは、向上心を持って、誠実に仕事をすること
「見識」とは、道理のもと、物事を見抜く力をもつこと
「気魄」とは、信念と責任を持って強い心でやり通す力のこと

国士舘の教育指針

四徳目を備えるには、不断の「読書・体験・反省」を実践し「思索」すること。

「読書」とは、善き書物に学び、世の中や自然界の真を理解すること
「体験」とは、智恵を持って善悪を判断し、善なる判断を実行すること
「反省」とは、何事も行った後、その行為を省みること
「思索」とは、省みた内容を検討し、次なる目標を立案すること

自ら備え、「安心」「安全」な学生生活を！

1 新型コロナウイルス感染予防のために

キャンパス入構時の検温、手指消毒、マスク着用を基本に、3密を避けた行動をとりましょう。通学時は大声や笑い声は控えめに。感染リスクの高い食事中は、感染防止ルールを守り黙食を心がけましょう。新型コロナウイルスに罹患した場合や濃厚接触者になった場合、発熱やだるさなど不調の症状がある場合は、登校・外出を控え健康管理室に連絡をしてください。

2 授業のことでわからないときは

新型コロナウイルスの影響で授業形態が切り替わることも予想されます。履修科目のことなど、学修に関することは学部窓口に相談しましょう。最新の情報は manaba（在学生向け）にアップされるため、定期的に確認しましょう。

大型連休中は特に気が緩みがち。人の集まる場所、大人数や長時間におよぶ飲食を極力避けよう！

3 自然災害が起きたら冷静な行動を

災害発生からの行動を示した本学の『災害対応マニュアル』を参考に、身の安全を守り落ちついて行動しましょう。また、本学が導入する安否確認システムに、メールアドレスや LINE の登録をしておきましょう。普段からの備えを行うことで被害を軽減することもできます。本学では、全新入生に「防災基礎教育」を実施しており、全学科目「防災リーダー養成論」でも災害時の実践力を身に付けることができます。

災害対応マニュアル▶▶

本学安否確認システム▶▶
（ログイン方法は manaba 掲載のマニュアルを参照してください）

4 甘い言葉に注意！気づけば加害者になることも

言葉巧みな勧誘で学生をねらう悪質商法やカルト宗教があります。被害者の多くは友人から勧誘を受けており、安易な勧誘行為は加害者になることも。振り込め詐欺では、高額バイトとして学生に詐欺の手伝いをさせるケースも増えています。内容を見極め、断る勇気を持ち、さらには自分自身が加害者にならないよう十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は、大学に相談してください。

5 SNS は常に誰かに読まれていることを意識して

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、誰でも気軽に発信することができる反面、よく考えることなく発信してしまいがちです。SNS は実際の友人以外にも、さまざまな人に読まれていることを常に意識し、不適切な発信、誤った情報の発信、個人情報の発信などに十分注意してください。ソーシャルメディアを利用する際の考え方や留意点をまとめた「国士舘大学ソーシャルメディアガイドライン」を遵守してください。

国士舘大学
ソーシャルメディアガイドライン ▶▶

6 薬物・危険ドラッグは NG

軽いノリと好奇心、「やせられる」「自信がつく」といった甘い言葉にのせられ、手を出してしまうケースがあります。人生が取り返しのつかないことになります。薬物の誘いは決して受けてはいけません。断固拒否してください。

7 たばこはあらゆる病気の引き金に

たばこがからだに悪いことを知って吸っている人がほとんどです。たばこは習慣になります。20 歳を過ぎてもたばこを吸わないのがベストです。また、東京都の受動喫煙禁止条例に基づき、指定喫煙場所以外での喫煙は禁止されています。歩行喫煙、路上喫煙、公園など子どもや人が多く集まる場所での喫煙は迷惑行為です。公共的な場所での喫煙は絶対にやめましょう。健康管理室では禁煙相談も行っています。

楽しい学生生活の中で出てくる「わからないこと」や「困ったこと」。あらかじめ知っておくことで防ぐことができるものもあります。キャンパスライフを楽しむために、一人一人ができることを再確認しましょう。

8 気持ちが落ち込む時は「学生相談室」へ

「学生相談室」は、学生生活で出合う問題や悩み事について、一緒に考え、話し合い、相談できるところです。専門のカウンセラーが相談に応じ、必要に応じて精神科医も対応することができます。電話による申し込み、ご家族からの相談にも応じています。秘密は厳守します。気軽に立ち寄ってみてください。

9 経済的な支援を受けたいとき

学内奨学金制度のほか、日本学生支援機構や地方公共団体、民間育英団体などが奨学金制度を設けています。家計急変などにより、奨学金が緊急に必要となる場合の奨学金制度もありますので、学生・厚生課（奨学金窓口）に相談してください。国士舘大学教育後援会でも相談に応じています。

10 学生生活を思い切り楽しもう！

本学には 100 を超える課外活動クラブがあります。仲間とともにひとつのことに取り組み、頑張る体験は生涯の宝になります。学生が利用可能なフィットネスセンターや温水プール、図書館などの施設のほか、進路の助けになるキャリア形成支援センターや教職支援室、資格講座を開講する生涯学習センター、海外留学の相談ができる国際交流センターなど、学生サポートも最大限活用しましょう。

学修、学生生活、人間関係、進路、経済的な問題など、困ったことがあればまずは相談してね。
WEB での相談申し込みも利用できるよ！

学生相談申し込み　WEB 受付 ▶▶

国士舘大学広報犬
KOKUSHIBA
@KOKUSHIBA

2 のご相談はコチラ

政経学部事務担当　03-5481-3151
体育学部事務課　042-339-7202
体育学部事務課　042-736-2330
（こどもスポーツ教育学科）
理工学部事務担当　03-5481-3251
法学部事務担当　03-5481-3322
文学部事務担当　03-5481-3231
21 世紀アジア学部事務課　042-736-1050
経営学部事務担当　03-5481-3147
大学院課　03-5481-3140

4 5 6 のご相談はコチラ

学生・厚生課
世田谷キャンパス（34 号館 1 階）
03-5451-8114
町田キャンパス（13 号館 1 階）
042-736-2316
多摩キャンパス（教室・管理棟 2 階）
042-339-7225

9 のご相談はコチラ

学生・厚生課（奨学金窓口）
世田谷キャンパス（34 号館 1 階）
03-5451-8113
国士舘大学教育後援会
03-3418-2692

1 7 のご相談はコチラ

健康管理室
世田谷キャンパス（34 号館 1 階）
03-5451-8115
町田キャンパス（11 号館 1 階）
042-736-2319
多摩キャンパス（教室・研究棟 1 階）
042-339-7206

8 のご相談はコチラ

学生相談室
世田谷キャンパス（34 号館 1 階）
03-5451-8116
町田キャンパス（11 号館 1 階）
042-736-5498
多摩キャンパス（教室・研究棟 1 階）
042-339-7365

国士舘大学 @KokushikanUniv　国士舘大学 @kokushikan_university　国士舘大学 @KokushikanUniversity　国士舘大学 YouTube

とことん活用！ 内定獲得 就活支援 コロナ禍逆風 乗り切ろう！

オンラインで278社

３月１日に企業による広報活動が解禁となり、２０２２年卒業・修了予定者の就職活動が本番を迎えている。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の延長で、本学は２月10日に新宿・京王プラザホテルで開催予定だった業界研究フェアを中止としたが、キャリア形成支援センターでは、オンラインでの開催と対面での開催を織り交ぜながら、就職活動をサポートしている。

就活！HOT SPACE

学部３年生・修士１年生を対象とした「就活！HOT SPACE」が２月12日から19日と３月４日から10日にかけて計10日間、オンラインで開催された。企業の担当者から直接話を聞くことができる本イベントに、延べ３０２２人の学生と企業２７８社が参加した。

集まった学生らはＺｏｏｍ内に設けられた企業ごとのブレイクアウトルームに分かれ、興味のある企業の説明会に臨んだ。

各企業はオンラインの特徴を生かし、スライドなどを用いて業界の説明や自社の事業案内、職種紹介などを行った。

各企業の説明会画面を確認するキャリア形成支援センターの職員

社会情勢の変化を受け、昨年に続き今年もオンライン主体の活動が予想される状況下で、Ｚｏｏｍでの説明会においても本番さながらの緊張感で参加する学生が目立った。

それぞれの説明会に設けられた質疑応答では、コロナ禍が企業に与えた影響や、それに伴う働き方の変化などについての質問も多く見られた。

参加した法学部の男子学生は「希望する業界以外の企業の説明会にも積極的に参加することで視野が広がった」と話し、21世紀アジア学部の女子学生は「就活は一生のことなので、キャリア形成支援センターの進路相談など活用できるものは積極的に利用したい」と意気込んだ。

今回は、中止となった業界研究フェアに出展予定だった企業にも急きょ参加を呼びかけ、規模を拡大して実施した。

警視庁も「心から歓迎」

採用実績トップの本学の強みを話す警視庁の採用担当者

公務員採用試験説明会

本学の新４年生を主な対象とした警視庁による「公安系公務員　仕事理解・採用試験説明会」が３月23日、多摩キャンパスの教室・実習棟２階中教室Ａで開催された。

警視庁採用センターの担当者は、対面での参加学生36人を前に業務内容や採用試験について解説した。説明会はオンラインでも中継され、Ｚｏｏｍで参加した本学学生は約70人にのぼった。

本学が警察官採用者の数で日本一を誇ることに触れ、採用担当者は「入庁後に支えてくれる、同じ大学の先輩が多く働いているのは大きな強み」と話し、「警視庁は国士舘大生の皆さんを心から歓迎します」と結んだ。学生らは終始、真剣な表情で聞き入っていた。

説明会は警視庁のほか、全国から消防・警察など12団体の公安系公務員の採用担当者を多摩キャンパスに招き、対面とオンラインの両方で行われた。

特別区や市など行政職公務員の説明会は世田谷キャンパスで３月中旬に全日程オンラインで開催され、合わせて13団体から話を聞いた。

願い こうして叶えた

模擬面接が大きな効果

大手旅行会社

法学部　深堀　健斗さん

大手旅行会社の内定を得た深堀さんは、「就活は一日でも早く始めるほうがよい」と断言する。

成田国際空港のそばで生まれ育ち、大学時代は全国を旅して回った経験から、将来は航空・旅行業界で働くことに漠然と憧れを抱いていたという。

夢を現実に変えるため、深堀さんは早めに行動を起こした。大学３年生の４月になるとすぐ、会社四季報や業界研究本を見るなどして分析を開始。それと同時期、本学のキャリア形成支援センターを初めて訪れた。「職員の方に相談したところ、一から教えてもらえた。それが後の就活を大きく左右した」と深堀さん。

センター提供のものはほとんど活用したが、中でも就職合宿セミナー（面接体験セミナー）が特に有意義だったという。

「合宿での模擬面接がその後に生きた。自分で気づけない長所や短所、直したほうがよい点を客観的に指摘してもらえ、本番の面接で修正できた」

３年生の夏に志望業界のインターンシップを経験して思いは確信に変わり、航空・旅行に絞り込んだ。そして翌年３月には大手旅行会社から内定を得た。

しかしその直後、新型コロナウイルスの影響により、航空各社が新卒採用の中断を発表した。「ニュースを見て、航空・旅行業界への打撃が一瞬頭をよぎった。それでも、自分にとって幸福度の高い仕事とは何かを考え抜いてきたので、内定先の旅行会社への気持ちは揺るぎませんでした」

最後にコロナ禍での就職活動に取り組む後輩たちへのアドバイスを聞くと、「オンラインでは画面越しだからこそ、対面よりも表情や声が重要になる。意識して少し大げさなくらいに表現することで熱意を伝えて」と助言してくれた。

（令和３年３月９日取材）

大手コンビニ会社

経営学部　西田　桃子さん

しゃべり場で自分改造

就職活動を前に、明確な将来のイメージはなかったと語る西田さん。周囲が業界を絞っていく中、とにかくさまざまな業界を見て回った。

自分が苦手と思う業界も、なぜ苦手なのかを知る意味で説明会に顔を出したという。後に内定を受ける大手コンビニ会社も、そんな思いで参加した企業の一つ。就業条件などあまり良いイメージを持っていなかった業界だったが、これまで知ることがなかった事業を実に幅広く行っていることを知った。「ここで働いたら可能性を狭めずに面白いことができそう」。西田さんの好奇心がくすぐられた瞬間だった。

元来好奇心旺盛な西田さんは、複数のアルバイトや課外活動クラブを掛け持ちする充実した大学生活を送っていた。しかし話すことは最初から得意だったわけではない。

就職活動の面接に臆することなく臨めるようになったきっかけは、キャリア形成支援センターが開催する低学年向け企画「しゃべり場」だった。西田さんは１年生から参加を重ね、初対面の人と話すことに慣れていった。そこではさまざまな価値観の共有ができることも楽しく、通い続けることでキャリアカウンセラーから就職活動のことや自身の強みなどを教わることもできた。

楽しみにもなった面接を強みに内定を得た会社は、業界として絞ったわけではなく元々希望していた職種でもない。しかし、幅広く見るうちに企業理念に共感できるこの会社を見つけることができた。「視野を広げて調べると、これまで知らなかった企業の魅力に気づくはず」と西田さんは後輩へアドバイスを送った。

（令和３年３月11日取材）

「視野広げ相性の合う企業を」

仕事理解セミナー

２月８日にキャリア形成支援センター主催の仕事理解セミナーがオンラインで開催され、３年生を中心に約１８０人の学生が参加した。

本セミナーは「世の中の業界・職種について理解を深めよう」と題して行われ、業界研究や職種への理解を深めることを目的に株式会社文化放送キャリアパートナーズ・就職情報研究所所長の平野恵子氏が講師を務めた。

平野氏は、企業が求める人物像は組織によってさまざまで、好みや相性も関係することを指摘し、就職活動では「相性の合う企業を見つける」という視点を持つよう提案した。

平野氏はさらに「コロナ禍の影響もあって売り手市場は変わりつつある。2022年卒の皆さんは特に、現時点で自分がイメージできる企業以外にも目を向けてほしい」と視野を広く持って活動するよう呼びかけた。

意識や心構えが新たに

しゃべり場

学部１年生から３年生を対象にキャリア形成支援センターが毎月実施している「しゃべり場」が１月25日と29日にオンラインで開催され、合わせて17人の学生が参加した。

テーマは「就職活動を終えた先輩から話を聞こう！」。民間企業や地方公共団体から内定を得た４年生から各回２人をゲストに招き、内定を勝ち取るまでの過程や苦労したこと、コロナ禍でのオンライン面接体験などの話を聞いた。

その後、キャリアカウンセラーが、４年生が語るさまざまな体験談をもとに、就職活動に必要な心構えや大学生活で意識すべきことなどをアドバイスした。

参加した学生からは「実体験の話を聞ける機会はなかなかないのでとても有意義だった」「内定企業への決め手について自分にはない視点での話で参考になった」などの感想が寄せられた。

「論文対策が大事」

教員試験面接練習会

本学教職課程運営センター主催の教員採用試験面接練習・研修会が２月13日、教員志望の３年生を対象にオンラインで開催され、午前・午後合わせて50人が参加した。７人の教職支援アドバイザーが各グループの学生に対し面接試験の概要と心構えなどを説明した後、個人面接の指導を行った。

例年この時期の教職支援室は論文指導などで学生の利用が多いが、今年はコロナ禍で利用者が減少。その影響もあってか、面接に慣れていない学生が目立った。講師を務めた教職支援アドバイザーは「論文対策を重ねることが、面接の際に話題にできる引き出しを増やすことにつながる。今回の気づきを日頃の論文・面接対策に生かしてもらえれば」と話し、教職支援室の一層の活用を期待した。

体験談も貴重なヒント

「過去問で傾向推測」

文学科 教員採用報告会

２月７日、文学部文学科の教員採用試験合格者報告会がオンラインで実施され、１年生から３年生の11人が、中学校の教員採用試験に合格した４年生と公立高校勤務１年目の卒業生から話を聞いた。

まず４年生が合格までの道のりについて話し、過去問で受験地域の試験傾向をつかむ、教職支援室で論文添削指導を受ける、日頃から自分で考え抜き周りの人と語ることで面接への苦手意識を払拭するなど、具体的なアドバイスをした。

次に卒業生が昨年４月からスタートさせた教員生活をさまざまな視点から紹介した。「生徒は教師の鏡だと実感する毎日。行動で示して信頼を得られるよう緊張感を持って仕事ができ、充実している」と話し、「失敗を恐れずそこから多くのことを学んでいこう」と助言した。

政経学部キャリアガイダンス

政経学部付属政治研究所は１月22日、「公務員&キャリア・ガイダンス～私の就活体験」をオンラインで開催した。

今回就職活動の体験を語ったのは、川崎市役所、警視庁の警察行政職員、東京消防庁からそれぞれ内定を得た政治行政学科の４年生３人。Ｚｏｏｍを通じて参加した学生約１００人に向けて、具体例を織り交ぜながら採用試験対策や合格の秘訣などについて語った。

質疑応答では、公務員と一般企業の就職活動の両立に戸惑う学生や、コロナ禍での就職活動に不安を抱える学生から多くの質問が寄せられ、終了間際まで熱心に受け答える姿が見られた。

このプログラムは公務員を目指す学生に向けて政治研究所が定期的に開催しているもので、内定した学生や卒業生などを講師に招き、採用試験対策や体験談、就業先の業務内容などを学生に共有している。

不安払拭へ熱く質疑

個人情報についてのお知らせ

国士舘大学では、在学生リストをはじめ、多くの個人情報をお預かりしています。これらのデータは、個人情報保護法にもとづいた学内規則を作り、適正に管理・運用しています。

個人情報をお預かりする場合は、使用目的を明らかにし、その目的の範囲内でのみ、使用させていただいております。ご本人の承諾のない限り、お預かりした個人情報を約束した目的以外に使用することはありません。

個人情報の取り扱いについて、疑問がございましたら、お申し出ください。所定の手続きに従って、情報の開示、あるいは訂正、利用停止などをいたします。

ガイドブック

1・3年生向けの国士舘オリジナル

キャリア形成支援センターが発行する3年生向けの『Working Gear』＝写真右＝と1年生向けの『Working Gear Jr.』＝同左。この国士舘オリジナルのガイドブックには、充実した大学生活を将来につなげるためのアドバイスや履歴書の書き方、面接対策など就職活動に役立つ情報が分かりやすく掲載されている。

冊子は1・3年生に発送するほか、学生ポータルサイト「Ikaede-i」には電子ブックを掲載する。

先輩が過ごした大学生活や就職活動体験談なども多く掲載しているため、学生生活や就職活動を始める際にぜひ活用してほしい。

著書紹介

［図解］被埋没的足跡
中國性別史研究入門
共著　小川快之（文学部教授）ほか
発行　國立臺灣大學出版中心
価格　730元

高齢者犯罪の総合的研究
編著　辰野文理（法学部教授）ほか
発行　風間書房
価格　6600円（税込）

異種材料の接着・接合技術と応用事例
共著　大橋隆弘（理工学部教授）ほか
発行　技術情報協会
価格　88000円（税込）

基本刑事訴訟法Ⅱ　論点理解編
共著　吉開多一（法学部教授）ほか
発行　日本評論社
価格　3300円（税込）

多職種連携を支える「発達障害」理解
編著　土居裕和（理工学部准教授）ほか
共著　本間貴子（文学部講師）ほか
発行　北大路書房
価格　2640円（税込）

進路に向けて学内サポートを活用しよう！

キャリア形成支援センター

世田谷キャンパス　8号館1階
町田キャンパス　12号館1階
多摩キャンパス　教室・管理棟2階

学生一人一人が能力や個性にあった進路を自ら選択できるよう、進路相談や各種プログラムを通じてキャリア形成や就職活動をサポートしています。

教職支援室

世田谷キャンパス　34号館2階
町田キャンパス　13号館1階
多摩キャンパス　教室・管理棟2階

教職支援アドバイザーを配置し、学生からのさまざまな相談に対応しています。定期的に教職課程受講者を対象とした面接練習会などを開催しています。

教員採用試験面接練習会

▶インターンシップ
一般企業および公共団体に本学学生枠を設け、夏季休業期間中にインターンシップを行います。学内選考を経て参加者を決定し、学内で事前・事後教育も実施します。

成果発表会の様子

▶就職講座
自己分析、業界・職種研究、応募書類・面接対策など、就職活動に必要なことを学びます。人事担当者を招いた本音トークや内定者報告会などのイベントも用意しています。

内定者報告会の様子

▶面接体験セミナー
企業の採用担当者を講師に招き、面接とグループディスカッションの指導を２日間受けます。企業側の視点から指導を受けられることから、学生の満足度が高いセミナーです。

▶業界研究フェア
本学学生の採用に意欲的な企業および公共団体200団体がブースを構え、担当者から業界・企業について学ぶビッグイベントです。毎年1000人以上の学生が参加します。

▶就活！HOT SPACE（学内業界・企業セミナー/合同企業説明会）
学内にさまざまな業界の優良企業を招き、定期的に業界・企業セミナーや合同企業説明会を実施します。

▶しゃべり場
学部１～３年生を対象に少人数で開催。さまざまなテーマを話し合い、コミュニケーション力の向上を目指します。

▶キャリアカウンセラーによる個別相談
進路や将来に関する相談や、就職活動の履歴書・エントリーシートの添削、面接指導などを受けられます。

▶U・Iターン就職支援
本学では、各自治体と就職支援に関する協定を進め、学生のU・Iターン就職を支援しています。

▶採用試験対策講座（公務員／警察官・消防官／教員）
公務員、教員をめざす人に、各種採用試験対策講座を用意しています。

そのほか、各種ガイダンスや仕事理解セミナー、公務員志望者向けのセミナーなど、数多くのプログラムを準備しています。

最新情報はコチラ ▶▶

世界で存在感

大岩選手

新体操W杯ソフィア大会で入賞

フープの演技をする大岩選手＝アフロ提供

喜田選手

五輪代表争い 本学選手同士熾烈に

3月26日から28日にかけて、ブルガリア・ソフィアで新体操ワールドカップ（W杯）ソフィア大会が開催され、個人総合決勝に出場した大岩千未来選手（理工1年）が8位に入賞した。本学からは喜田純鈴選手（21ア2年）も出場し、個人総合では17位となった。

大岩選手は約1年ぶりの試合出場ながらも安定感のある演技で4種目をまとめ、世界の舞台で存在感をアピールした。

大会後、大岩選手は「久しぶりの試合で不安な気持ちもあったが、落ち着いて演技できた。今大会の反省点を次に生かし改善していきたい」と語り、喜田選手は「今回の悔しい気持ちを忘れず、次に向け演技内容を見直していく」と誓った。

今夏の東京2020大会に向け、新体操個人競技の熾烈な代表争いが続いている。4月の時点で個人の出場枠は「1」。今後のW杯の結果次第では出場枠が増える可能性もあるが、いずれにしても6月の全日本クラブ選手権で代表選手が決定する予定。出場権を巡り今後、大岩選手、喜田選手、卒業生の皆川夏穂選手（21ア令和2年卒）がしのぎを削る。

また、団体では卒業生の松原梨恵選手（21ア平成28年卒）が出場し、団体総合で銅メダル、種目別ボールとフープ・クラブでそれぞれ銀メダルに輝いた。

ユニバス表彰

女子新体操部が最優秀賞 個人部門では2人が優秀賞

村上選手

衛藤さん

3月29日、一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS＝ユニバス）が発表する「UNIVAS Awards2021」において、本学女子新体操部が「大会・プロモーションに関する優秀取組賞」部門で最優秀賞に輝いた。

最優秀賞となったのは、本学女子新体操部が東京女子体育大学新体操部と昨年9月、リモートで共催した「第1回新体操楓（とうふう）杯」に関する一連の取り組み。コロナ禍にあって、新しい生活様式に即した形での大会開催を模索し、開催に至ったことが評価された。

このほか、個人受賞として男子新体操部の村上惠右選手（体育4年）が「パーソン・オブ・ザ・イヤー」の7人のうち1人に選出され優秀賞を、女子新体操部マネージャーの衛藤実優さん（体育2年）が「サポーティングスタッフ・オブ・ザ・イヤー」で優秀賞をそれぞれ受賞した。

本表彰制度は、大学スポーツの統括組織としてスポーツ庁が先導し設立したユニバスが、大学スポーツ全体の活性化につなげることを目的に学生、団体を表彰する取り組みで、今回が2回目の開催。評価の対象を競技成績や大会結果のみに限らず、多様な基準を設けた上で13の部門に分けて表彰した。

パラ水泳 4選手1位

齋藤選手は日本タイ記録で 100メートル背泳ぎ

日本選手権

好成績をおさめた4選手（左から、川原選手、清水選手、齋藤選手、冨樫選手）

3月6日から7日にかけて第37回日本パラ水泳選手権大会が静岡・富士水泳場で開催され、川原渓青選手（院修士1年）、齋藤元希選手（理工4年）、冨樫航太郎選手（同4年）、清水滉太選手（同2年）の4選手が出場し、前回大会に続きそれぞれ個人競技で1位を獲得するなど好成績をおさめた。

肢体不自由クラスでは、川原選手が100㍍平泳ぎと200㍍個人メドレーで大会新記録を出し1位に、冨樫選手が50㍍自由形と200㍍個人メドレーで1位に、50㍍バタフライで2位に輝いた。

視覚障害クラスでは、齋藤選手が100㍍背泳ぎで日本タイ記録をたたき出し1位、さらに200㍍個人メドレーで1位、100㍍自由形でも2位を獲得。清水選手は200㍍自由形で大会新記録の1位、50㍍バタフライで1位、50㍍自由形で3位となった。

このほか、4選手による200㍍リレーと200㍍メドレーリレーでも2年連続優勝を果たし、積み重ねてきた練習の成果を存分に発揮した。

齋藤選手は、5月21日から23日に開催される、東京2020パラリンピック競技大会の代表選考を兼ねた2021ジャパンパラ水泳競技大会に出場する予定で、パラリンピック代表内定への期待がかかる。

マネージャーの声 No.40

相撲部

前列左端が山野井さん

主将 山野井　栄志（体育2年）

相撲部は現在、2年生6人、1年生6人の計12人が所属し、多摩キャンパス相撲場にて活動しています。

歴史は長く、昭和33年に創設され、60年以上の伝統を誇るクラブです。過去には全国学生選手権（インカレ）Aクラスに出場したこともありますが、ここ数年は部員不足により団体戦に出場できず、廃部の危機を迎えていました。

しかし、昨年私たち2年生6人が入部し、新生相撲部として新たなスタートを切りました。コロナ禍の影響で、9月までは直接顔を合せることもできない厳しい状況でしたが、おのおのが限られた環境の中で工夫してトレーニングを行ったり、オンラインで連絡を取り合うなど、指導者の先生方を含め全員で支え合いながら自粛期間を乗り越えました。

十分な稽古は積めませんでしたが、東日本学生相撲選手権大会ではBクラスを6位で通過し、決勝トーナメントに進出したほか、東日本学生相撲リーグ戦では三部で優勝し、二部昇格を果たすことができました。

他のクラブと違い上級生がいないため、ゼロからのチーム作りで大変なことも多いですが、今年はインカレでBクラス優勝、Aクラス進出という目標を達成するため、切磋琢磨し、日々稽古に励んでいます。

相撲は土俵上の相手に、自分の持つ「心技体」のすべてをぶつけて、勝敗が決着するとても魅力的な競技です。これから国士舘大学相撲部を盛り上げていきますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

準硬式野球部

中列左端が堀内さん

マネージャー 堀内　友（体育4年）

準硬式野球部は、東都リーグ1部に所属し、選手84人、マネージャー2人で、全国制覇を目標に活動しています。

私たちマネージャーは影からチームを支える立場として、練習や大会がスムーズに進むようサポートしています。

業務は、球出しやタイマー管理などの練習補助はもちろんのこと、大会でのスコア記入やアナウンス、ホームページの管理、SNSを利用した広報活動など多岐にわたり、リーグの大会運営も大学の垣根を越えて学生主体で行っています。多いときには部員が100人以上にもなる大きな組織を支える仕事は大変ですが、その分計画を立てて行動し、周りと協力しながら運営しています。

この活動を通して、コミュニケーションの大切さや視野を広く持つことなど多くのことを学び、成長することができました。マネージャーは表に立つことはありませんが、一番近くで選手を応援し、勝利を喜び合うことができます。今後も、選手やチームのためにサポートしていきたいと思います。

一昨年はチームの歴代最高の全国ベスト4という結果を残すことができましたが、昨年は、コロナ禍の影響で大会が中止となり、これまでの練習の成果を発揮する場を失い、悔しい思いをしました。

今年は先輩方の思いを引き継ぎ、野球ができる環境に感謝し、チーム一丸となり全国制覇を目指し頑張っていきますので、今後とも温かいご声援をよろしくお願いいたします。

オリパラ巡回セミナー

語り合い全4回終了

東京1964大会の思い出話に花が咲く会場

東京都多摩市と本学が主催する多摩市巡回セミナー「オリンピック・パラリンピックをもっと知って、みんなで語りませんか!?」が、3月6日に桜ケ丘コミュニティセンター（ゆう桜ケ丘）で実施され、20人の地域住民らが参加した。

講師は、オリンピック・パラリンピック教育に関する研究などを進める本学スポーツ・システム研究科の青柳秀幸さん（院博士3年）が務めた。

セミナーでは、青柳さんがオリンピック・パラリンピックの歴史や理念についてわかりやすく解説。また、東京1964大会を資料や映像で振り返るとともに、東京2020大会を契機に開催されるさまざまな取り組みについて紹介した。

会場に集まった参加者は東京1964大会当時のことを「東京の空に描かれた五輪のマークを見た」「仕事を抜け出しマラソンを見に行った」と思い出しながら大会をきっかけに社会が大きく変わっていったことなどを振り返った。

このセミナーは、多摩市と本学の連携協定に関わる東京オリンピック・パラリンピック推進事業の一環として市内のコミュニティセンター4カ所を巡りながら全4回開催され、参加者は延べ62人を数えた。

リーダーズキャンプ オンラインで開催

本学課外活動クラブの主将予定者などを対象としたリーダーズキャンプが2月26日にオンラインで開催され、約80人が参加した。

まず佐藤圭一学長が、創立者・柴田德次郎から学ぶリーダーシップ論をテーマとして講話した。その後、学生部副部長で文学部の細越淳二教授が講演し、令和2年度の課外活動クラブの状況を振り返りながら、今後もこれまでとは異なる状況下でクラブを支えるリーダーが求められていると強調した。

参加学生らはその後、グループに分かれて班別討議に臨み、クラブをまとめていく上で身に付けるべき要素をテーマに意見交換した。

リーダーズキャンプは、リーダーシップのあり方を学ぶとともに、各クラブの参加者同士が互いの理解を深めることを目的に例年2泊3日で実施されている。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年はZoomでのオンライン開催となった。

強化クラブ対象のアスリートプログラムも

3月15日には、国士舘スポーツプロモーションセンターが主催する「国士舘アスリートプログラム」がオンラインで行われ、本学34のスポーツ協議会指定クラブから、部員ら約90人が参加した。

まず、細越教授が「国士舘大学スポーツアスリート憲章」の精神を説き、本学学生アスリートとしてのスポーツマンシップについて解説した。

次に、多彩な競技でコーチングの実績を持つ筑波大学大学院特任助教の清野隼氏が、自身の経験したエピソードを交えながら、栄養サポートの面からみたアスリートの競技力向上や人間力向上について講演した。学生らは熱心に聴講し、自らのトレーニングに主体的に取り組む上での参考としていた。

本プログラムは、本学スポーツ協議会指定クラブの部員を対象に、クラブ横断型でスポーツに関わる内容を提供する学生アスリートの育成プログラムで、今回初めて実施された。

アイスランド五輪選手団 プールを練習場に使用

町田キャンパス 15号館改修完工

スポーツ環境整備の一環として昨年12月に開始した、町田キャンパス15号館1階の改修工事が2月に完了した。トイレやシャワールーム、ロッカールームなどの内装を改修したほか、バリアフリーに配慮し、多目的トイレや屋外スロープを新たに設置した。

本学は、アイスランド国立オリンピック・スポーツ協会（ISI）および東京都多摩市と東京2020大会の事前キャンプ地として本学施設を提供する覚書を締結しており、アイスランド選手団は15号館のプールを練習場所として使用する予定となっている。

応援しよう！

国士舘から 羽ばたくアスリート

※このコーナーでは、令和2年度卒業生のうち、卒業後も所属先で競技を継続するアスリートを紹介します。
※各クラブからの報告に基づいています。（順不同／4月21日現在）

▼柔道（男子）＝飯田健太郎（旭化成）、磯村亮太（アドヴィックス）、岩渕晃大（京葉ガス）、鈴木晃多（セントラル警備保障）、友清光（日本製鉄）、松村将輝（リンクスタップグループ）、山下魁輝（同）、小西誠志郎（自衛隊体育学校）、久野壱虎（皇宮警察）、山崎翔偉（岩手県警）、本間壘（千葉県警）、橋本静綺（警視庁）、佐藤城（神奈川県警）、本田慎平（同）、深沢亮太（山梨県警）、安田夢飛（大阪府警）、松岡遼（愛媛県警）、加賀谷武弘（長崎県警）

▼剣道（男子）＝奥村優太（北海道警）、平田仁之助（大阪府警）

▼剣道（女子）＝村井滉菜（警視庁）

▼空手道＝須田和広（高栄警備保障）、辻田誠一郎（同）

▼レスリング＝阿部敏弥（国士舘）

▼陸上競技＝曽根雅文（JR東日本）、宮園彩恵（染めQテクノロジィ）、田代一樹（新潟アルビレックスランニングクラブ）

▼サッカー（男子）＝松岡大智（カターレ富山）、田代琉我（ロアッソ熊本）、宮本英治（いわきFC）、西本卓申（MIOびわこ滋賀）、橋本峻輝（同）、新井晴樹（FC TIAMO枚方）、澁谷雅也（FC大阪）、堀田佳佑（松江シティFC）

▼サッカー（女子）＝設楽千夏（岡山湯郷Belle）

▼硬式野球＝益田海成（九州三菱自動車）、小田川来夢（JPアセット証券）、赤羽陸（日本製鉄かずさマジック）

▼ハンドボール（男子）＝宮本辰弥（シークスター東京）、松井将（トヨタ紡織九州）

▼バレーボール（男子）＝澤口渉（警視庁フォートファイターズ）、三渡たくみ（大同特殊鋼レッドスター）、黒川寛輝（ディラン（SHINAGAWA CITY BEACH VOLLEYBALL CLUB）

▼バレーボール（女子）＝山口真季（ルートインホテルズブリリアントアリーズ）

▼アメリカンフットボール＝竹田朋生（アサヒビールシルバースター）

▼体操競技（女子）＝平井美優（三重県スポーツ協会）

※最新版は「スポ魂」サイトでご確認ください。

活躍するスポーツ

【柔道】
●第33回全国体育系学生体重別選手権大会（3／22～24）
男子60㌔級　3位　石川俊介（体2年）
男子73㌔級　優勝　三谷大（体3年）
男子81㌔級　優勝　安藤稀梧（体2年）
男子90㌔級　優勝　中西一生（体2年）
男子100㌔級　準優勝　熊坂光貴（体2年）

【準硬式野球】
●第63回関東地区大学野球選手権　3位　国士舘大学

卒業生の皆様へ

いつも国士舘大学新聞をご愛読いただき、ありがとうございます。

住所変更や発送停止をご希望の場合は、国士舘大学同窓会ホームページからお手続きが可能です。

同窓会事務局 ☎ 03-3413-7303

表記基準について

本紙の表記基準は次の通りです。

【記事中の所属・学年（職名）について】
◇記事内容当時のものとします。
◇インタビュー記事は取材日当時のものとし、取材日を記載します。
◇寄稿文は発行日現在のものとします。

【略語について】
政経学部＝政経、政／体育学部＝体育、体／理工学部＝理工、理／法学部＝法／文学部＝文／21世紀アジア学部＝21ア、ア／経営学部＝経営、営／大学院＝院修士、院博士、院／国士舘高等学校＝国士高、高／国士舘中学校＝国士中、中

雑誌『大民』を探しています！

国士舘の淵源は、青年大民団の結成にあります。
青年大民団の機関誌、1916年創刊の雑誌『大民』は、本学の沿革を知るための大切な資料です。
しかし本学では、残念ながらほとんど原本を所蔵しておりません。
ついては、雑誌『大民』の原本を探しています。
ご提供または所蔵先の情報などをお寄せ下さい。
皆様のご協力を、何卒よろしくお願いいたします。

雑誌『大民』の概要
創刊：1916年6月15日、月刊誌
発行：青年大民団（後に大民団・大民倶楽部・大民社へ変遷）
注記：1924年7月（第11巻）より『生存同盟』に改題

ご連絡先
国士舘史資料室
TEL 03-3418-2691
E-MAIL archives@kokushikan.ac.jp

所蔵確認済み機関：国立国会図書館／静岡県立図書館／都城市立図書館／北海道大学図書館／法政大学大原社会問題研究所／神戸大学社会科学系図書館／大宅壮一文庫

1916『大民』創刊 ▶ 1917 国士舘創立

スポ魂 SPOKON　国士舘のスポーツ情報オフィシャルサイト　KOKUSHIKAN SPORTS
国士舘　スポ魂　検索